

文部科学省 令和4年度
研究者の業務負担を軽減するために必要とされる
研究支援サービスに関する調査
調査報告書

本報告書は、文部科学省の令和4年度委託事業「研究者の業務負担を軽減するために必要とされる研究支援サービスに関する調査」として、株式会社シード・プランニングが実施した成果を取りまとめたものです。

従って、本報告書の著作権は、文部科学省に帰属しており、本報告書の全部又は一部の無断複製等の行為は、法律で認められたときを除き、著作権の侵害にあたるので、これらの利用行為を行うときは、文部科学省の承認手続きが必要です。

目次

1. 本調査の目的	6
1-1 本調査の背景と目的	6
1-2 本調査の実施方法	6
1-2 (1) 大学等の研究現場における研究支援サービスのニーズに関する調査	6
1-2 (2) 大学等の研究現場における A-PRAS の認定を受けていない研究支援サービスに関する調査・分析	7
1-2 (3) 海外の研究現場における研究支援サービスに関する調査・分析	7
1-2 (4) 報告書作成	7
1-3 実施スケジュール	7
2. 大学等の研究現場における研究支援サービスのニーズに関する調査	8
2-1 調査方法	8
2-1 (1) 回答方法	8
2-1 (2) 回答項目	9
2-2 調査結果	14
2-2 (1) 回答者属性	14
2-2 (2) 課題や問題点	17
2-2 (3) A-PRAS の認知度	19
2-2 (4) 研究支援サービスの利用状況	20
3. 大学等の研究現場における A-PRAS の認定を受けていない研究支援サービスに関する調査・分析	21
3-1 調査方法	21
3-1 (1) リクルート方法／インタビュー方法	21
3-1 (2) インタビュー対象者	22
3-1 (3) 回答項目	23
3-2 調査結果	24
3-2 (1) 利用サービスについての印象・感想	24
3-2 (2) 日常業務における課題	26
3-2 (3) A-PRAS の広報、周知方法	29
4. 海外の研究現場における研究支援サービスに関する調査・分析	30
4-1 調査方法	30
4-1 (1) リクルート方法／インタビュー方法	30
4-1 (2) インタビュー対象者	32

4-1 (3) 回答項目	33
4-2 調査結果.....	34
4-2 (1) 利用サービスについての印象・感想.....	34
4-2 (2) 日常業務における課題.....	35
4-2 (3) A-PRAS の広報、周知方法.....	37
5. 認定制度及び研究現場における課題に対する提言	38
Appendix.....	41

用語・略称の一覧

本報告書での表記	正式名称・意味など
A-PRAS	研究支援サービス・パートナーシップ認定制度。研究者の研究環境を向上させ、我が国における科学技術の推進及びイノベーションの創出を加速すると認められるサービスについて文部科学省が認定を行うもの。
URA	リサーチ・アドミニストレーター。大学等において、研究者とともに（専ら研究を行う職とは別の位置付けとして）研究活動の企画・マネジメント、研究成果の活用促進を行うことにより、研究者の研究活動の活性化や研究開発マネジメントの強化等を支える業務に従事する人材。（RA 協議会 HP 参照）
テニュアトラック制	<p>若手研究者が自立的に研究できる環境を整備し、以下の要件を満たした形態で教員・研究者を採用する人事制度のこと。</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 公募を実施するなど公正で透明性の高い選考方法であること ② 一定の任期を付して雇用すること ③ 任期終了前に公正で透明性の高いテニュア審査が設けられていること

1. 本調査の目的

1-1 本調査の背景と目的

科学技術の振興やイノベーションの創出を進めるためには、研究者の研究時間や研究資金の確保などが必要であり、こうした研究者の研究環境向上に資するための支援をできるだけ多く行うことが重要である。このため、政府による支援だけでなく、優良な民間サービスの活用を促進していくことが重要である。

そうした問題意識の下に、文部科学省では、民間事業者が行う研究支援サービスのうち、研究者の研究環境を向上させ、我が国における科学技術の推進及びイノベーションの創出を加速すると認められるサービスを認定する「研究支援サービス・パートナーシップ認定制度（A-PRAS）（以下、A-PRAS という。）」を令和元年度より開始した。文部科学省が優良サービスを認定することで、全国の国公私立大学（短期大学を除く約800機関（以下「大学等」という。））や研究機関がそれらのサービスを安心して利用できるようになり、活用が促進され、研究環境が向上していくことを目指している。

令和元年度及び2年度に行った公募でこれまでに9件のサービスを認定した。これらのサービスは、それぞれ優れた特徴を有しており、研究環境の向上に資するものであると考えている。一方で9件のサービスだけでは、研究現場の環境におけるすべての課題を網羅できず、更に優れたサービスを掘り起こし、認定することで、研究現場に利活用を進めていくことが肝要である。

本調査では A-PRAS に認定されているサービス以外の、研究現場で必要とされている研究支援サービスを調査するとともに、外国の研究現場で活用されている研究支援サービスについても調査を行い、こういったサービスの活用可能性について探ることを目的とする。

1-2 本調査の実施方法

本調査は、文部科学省と協議を行い、連携しつつ実施した。なお、文部科学省と行う協議や研究支援サービスの関係者含むヒアリングおよびアンケート全般については、オンラインで実施した。

1-2 (1) 大学等の研究現場における研究支援サービスのニーズに関する調査

大学等の研究現場に存在する、研究環境における課題や A-PRAS の認知度、利用している研究支援サービス等に関してオンラインにてアンケート調査を行った。大学事務等を通じて、研究者等（大学等における研究者や博士課程学生、URA 等の研究現場に携わる様々な方々）にメールやイントラ等を通じて回答いただくよう依頼を行った。結果として国立、公立、私立、一部の大学共同利用機関法人を含めた 649 機関から 21,738 件の回答を得た。

本アンケート内に現在利用している研究支援サービスおよびインタビュー協力の可否についての設問を設定し、1-2 (2) 以降のインタビューリクルートに活用した。

1-2 (2) 大学等の研究現場における A-PRAS の認定を受けていない研究支援サービスに関する調査・分析

1-2 (1) のアンケート調査で回答された、現在利用している研究支援サービスおよびインタビュー協力の可否の回答を基にインタビューリクルートを実施。7 名にインタビューを行った（1 名は文書で回答）。利用している研究支援サービスの概要や利用状況等、実際利用した上での意見・感想等を調査し、そのサービスの活用可能性についての分析を行った。

1-2 (3) 海外の研究現場における研究支援サービスに関する調査・分析

英国のオックスフォード大学やケンブリッジ大学、米国のハーバード大学やカリフォルニア工科大学等の大学が公開する教員リストから日本人研究者 100 名を抽出。公開情報からアンケートの回答およびインタビュー協力依頼を実施した。結果としてアンケートは 8 件の回答を得た。本来、インタビューは 4 件程度のリクルートを目指したが、適した対象者を十分に集めることができなかったため、日本の研究現場において海外サービスを利用している研究者のリクルートを行った。本リクルートにおいては 1-2 (2) と同様の方法で 3 名のインタビューを実施した。

1-2 (4) 報告書作成

1-2 (1) ～1-2 (3) により得られた調査内容を総合し、報告書としてとりまとめた。

1-3 実施スケジュール

研究支援サービス・パートナーシップ認定制度（A-PRAS）の利活用促進に関する調査の実施スケジュールを図表 1-1 に示す。

大項目	小項目	2022年11月					2022年12月					2023年1月					2023年2月					2023年3月				
		1W	2W	3W	4W	5W	1W	2W	3W	4W	5W	1W	2W	3W	4W	5W	1W	2W	3W	4W	5W	1W	2W	3W	4W	5W
Step1 デスクサーチ	-																									
Step2 アンケート調査	(1) アンケート票作成																									
	(2) システム構築																									
	(3) アンケート票配布																									
	(4) アンケート票回収																									
Step3 インタビュー調査	(1) リクルート																									
	(2) インタビュー票作成																									
	(3) インタビュー実施																									
	(4) 回答票作成																									
Step4 報告書作成	(1) 定量分析																									
	(2) 報告書作成																									

図表 1-1 実施スケジュール

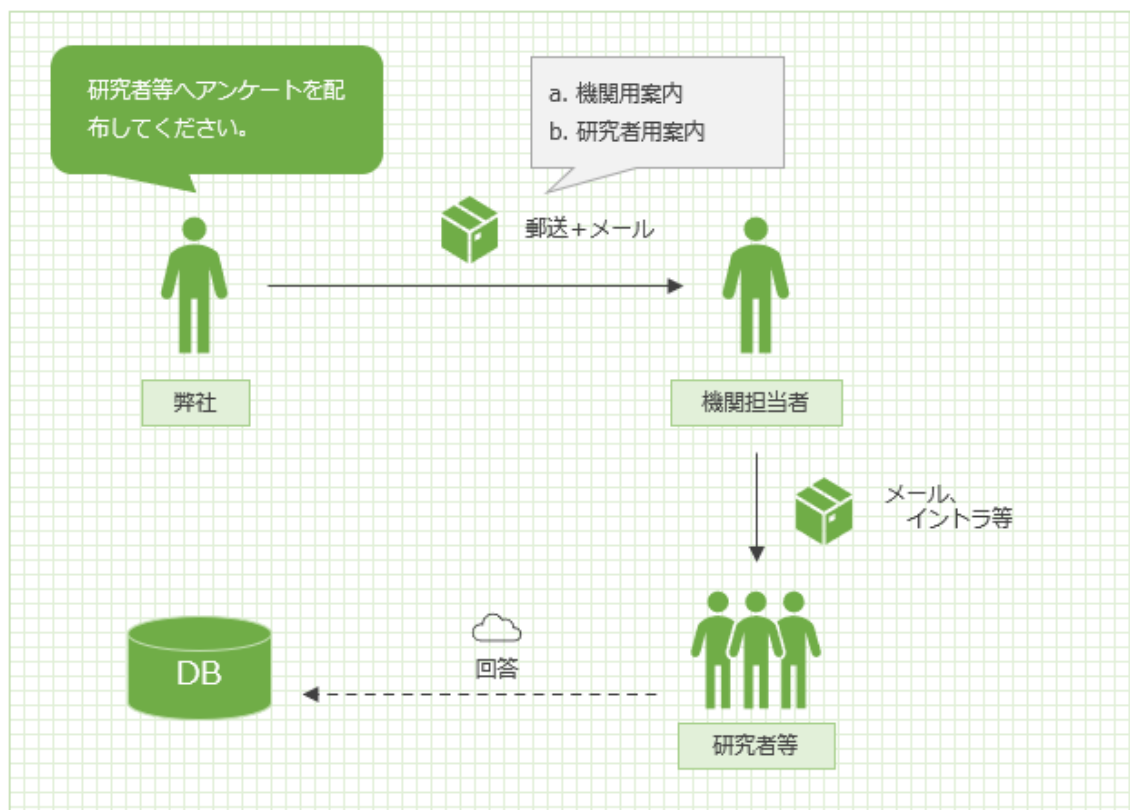
2. 大学等の研究現場における研究支援サービスのニーズに関する調査

2-1 調査方法

2-1 (1) 回答方法

大学事務等を通じ、研究者等（大学等における研究者や博士課程学生、URA 等の研究現場に携わる様々な方々）にメールやイントラ等を通じて回答いただくよう依頼を行った。通達は郵送とメールにて行い、郵送では「機関用案内」として主に依頼事項をまとめた依頼文書、「研究者用案内」として主にアンケートへの回答方法をまとめた依頼文書の2部を同封した。メールでも同様の依頼文書をPDF化し、文部科学省より一斉配信を行った。各依頼文書には問い合わせ窓口の電話番号及びメールアドレスを記載し、電話では平日10時～17時、メールでは適時間問い合わせ対応を行った。

本アンケートは受託者が構築したWeb回答システムを活用。上記「研究者用案内」にアクセス先URL及びQRコードを記載した。回答期間は2023年1月4日～2023年1月27日17時。



図表 2-1 回答方法イメージ

2-1 (2) 回答項目

Q1. 機関種別 (ひとつを選択)

a.国立大学 / b.公立大学 / c.私立大学 / d.大学共同利用機関法人

Q2. 機関名称

(事前登録した機関リストから選択)

Q3. 性別 (ひとつを選択)

a.男性 / b.女性 / c.その他 or 回答しない

Q4. 年齢 (ひとつを選択)

a.25 歳未満

b.25 歳～29 歳

c.30 歳～34 歳

d.35 歳～39 歳

e.40 歳～44 歳

f.45 歳～49 歳

g.50 歳～54 歳

h.55 歳～59 歳

i. 60 歳～64 歳

j.65 歳以上

Q5. 職種/役職 (ひとつを選択)

a.教授

b.准教授

c.助教

d.講師

e.博士(後期)課程学生

f. ポストドクター

g.その他研究員 ()

h.技術職員・技術者

i.URA

j. その他 ()

Q6. 学術分野（ひとつを選択）

人文科学	a.文学 b.史学 c.哲学 d.人文学-その他	農学	aa.農学 ab.農芸化学 ac.農業工学 ad.農業経済 ae.林学 af.林産 ag.獣医・畜産 ah.水産 ai.農学-その他
社会科学	e.法学・政治 f.商学・経済 g.社会学 h.社会科学-その他	保健保険	aj.医学 ak.歯学 al.薬学 am.看護 an.保健-その他
理学	i.数学 j.情報科学 k.物理 l.化学 m.生物 n.地学 o.理学-その他	その他の部門	ao.心理学 ap.家政 aq.教育 ar.芸術・その他
工学	p.機械・船舶 q.電気・通信 r.土木・建築 s.応用化学 t.応用理学 u.原子力 v.材料 w.繊維 x.航空 y.経営工学 z.工学-その他		

Q10. 以下のサービスの認知度および利用状況についてお答えください。

企業名／サービス名	利用したことがない	利用したことがある
カクタス・コミュニケーションズ株式会社 「Impact Science」	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
株式会社リバネス 「L-RAD (エルラド)」	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
日本電子株式会社 「研究機器のシェアリングサービス」	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
株式会社ジー・サーチ 「JDream Expert Finder」	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
丸善雄松堂株式会社 「J-DAC ジャパンデジタルアーカイブズ センター」	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
ミュージックセキュリテーズ株式会社 「Securite ACADEMIA (寄付)」	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
Beyond Next Ventures 株式会社 「BRAVE」	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
リカケンホールディングス株式会社、 MHC リユースサービス株式会社、株式会 社Z A I C O 「リサイクルネットワーク、マルチベンダ ーサービス、ラ ポストックサポート、Z A I C O、Z A I」	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
READYFOR 株式会社 「READYFOR College」	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

Q11. 日常的に利用している国内企業が提供する研究支援サービスを教えてください。

企業名

サービス名

企業名

サービス名

企業名

サービス名

Q12. 日常的に利用している海外企業が提供する研究支援サービスを教えてください。

企業名

サービス名

企業名

サービス名

企業名

サービス名

Q13. 本調査においては、研究者等が利用する研究支援サービスについてさらに深く理解するために、インタビュー調査を実施する予定です。ご協力いただける方は「はい」を選択してください。

a. はい

b. いいえ

Q14. 連絡先（設問 13 が「a. はい」の場合のみ回答）

氏名

電話番号

メールアドレス

2-2 調査結果

本調査では 649 機関 21,738 件の回答を得た。総務省統計局「2022 年（令和 4 年）科学技術研究調査」によれば、国内の大学等に所属する研究本務者数はおよそ 30 万人。本調査には一部 URA も回答者に含まれるなど、定義の違いから直接的に比較はできないが、おおむね全体の 7% が回答したことになり、十分な回答数と言える。

なお、本報告書末尾「Appendix」に集計データ（単純集計、クロス集計の一部）を掲載している。

2-2 (1) 回答者属性

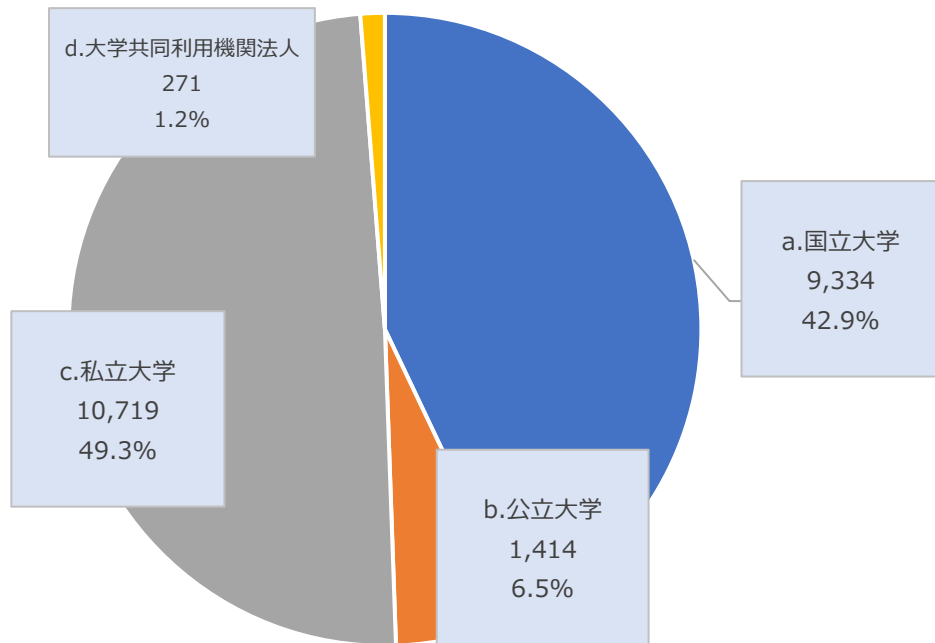
「機関種別」では、「国立大学」（42.9%）、「公立大学」（6.5%）、「私立大学」（49.3%）、「大学共同利用機関法人」（1.2%）であった。（図表 2-2 参照）

「性別」では「男性」（68.3%）、「女性」（28.5%）、「その他／回答しない」（3.2%）であった。（図表 2-3 参照）

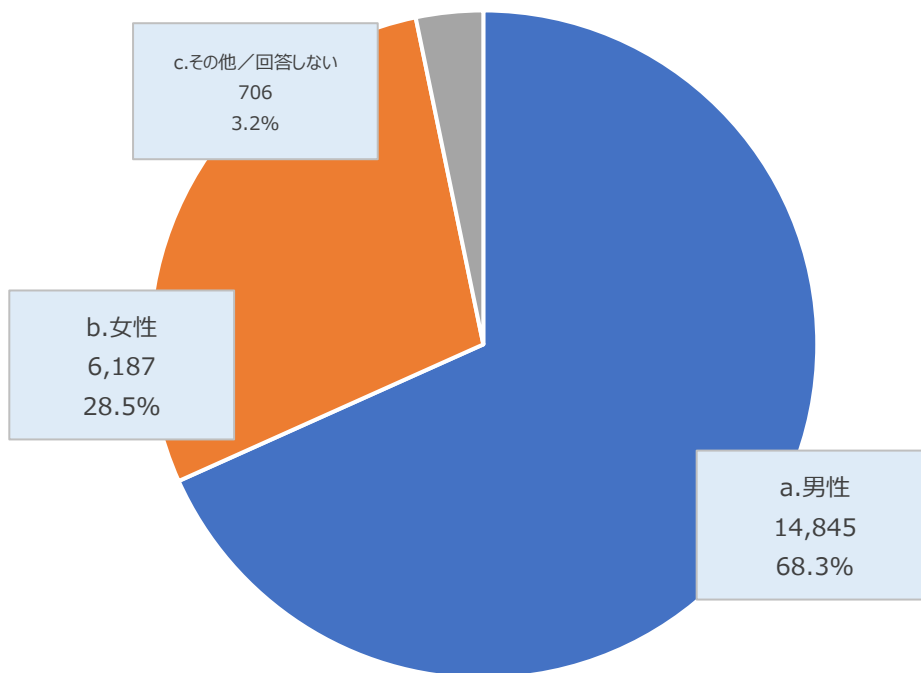
「年齢」では、「25 歳未満」（0.2%）、「25 歳～29 歳」（5.2%）、「30 歳～34 歳」（8.3%）、「35 歳～39 歳」（11.5%）、「40 歳～44 歳」（14.8%）、「45 歳～49 歳」（16.5%）、「50 歳～54 歳」（15.0%）、「h.55 歳～59 歳」（13.0%）、「60 歳～64 歳」（11.2%）「65 歳以上」（4.3%）であった。（図表 2-4 参照）

「職種／役職」では「教授」（33.6%）、「准教授」（24.3%）、「助教」（15.8%）、「講師」（10.8%）、「博士（後期）課程学生」（6.4%）、「ポストドクター」（1.3%）、「その他研究員」（2.1%）、「技術職員・技術者」（3.5%）、「URA」（0.6%）、「その他」（1.6%）であった。（図表 2-5 参照）

「学術分野」では、「人文科学」（8.9%）、「社会科学」（11.6%）、「理学」（13.9%）、「工学」（15.5%）、「農学」（6.3%）、「保健」（31.1%）、「その他部門」（12.8%）であった。（図表 2-6 参照）



図表 2-2 機関種別の回答者数



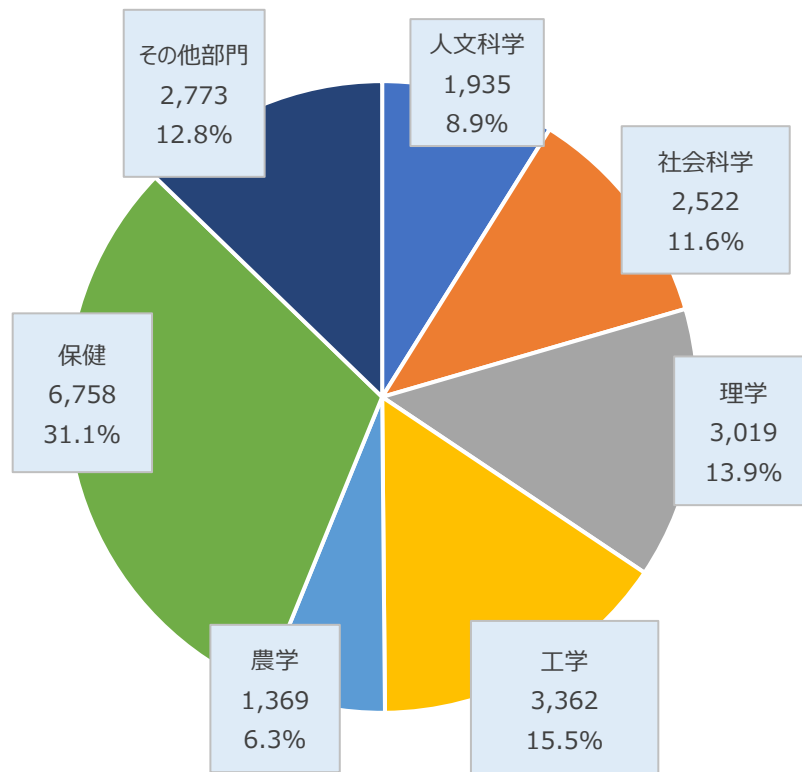
図表 2-3 性別ごとの回答者数

カテゴリー名	n	%
a.25歳未満	51	0.2%
b.25歳～29歳	1,128	5.2%
c.30歳～34歳	1,796	8.3%
d.35歳～39歳	2,497	11.5%
e.40歳～44歳	3,209	14.8%
f.45歳～49歳	3,597	16.5%
g.50歳～54歳	3,252	15.0%
h.55歳～59歳	2,834	13.0%
i.60歳～64歳	2,434	11.2%
j.65歳以上	940	4.3%
全体	21,738	100.0%

図表 2-4 年齢階層別回答者数

カテゴリー名	n	%
a.教授	7,296	33.6%
b.准教授	5,283	24.3%
c.助教	3,426	15.8%
d.講師	2,345	10.8%
e.博士（後期）課程学生	1,395	6.4%
f.ポスドクター	285	1.3%
g.その他研究員	453	2.1%
h.技術職員・技術者	768	3.5%
i.URA	134	0.6%
j.その他	353	1.6%
全体	21,738	100.0%

図表 2-5 職種／役職別回答者数



図表 2-6 学術分野別回答者数

2-2 (2) 課題や問題点

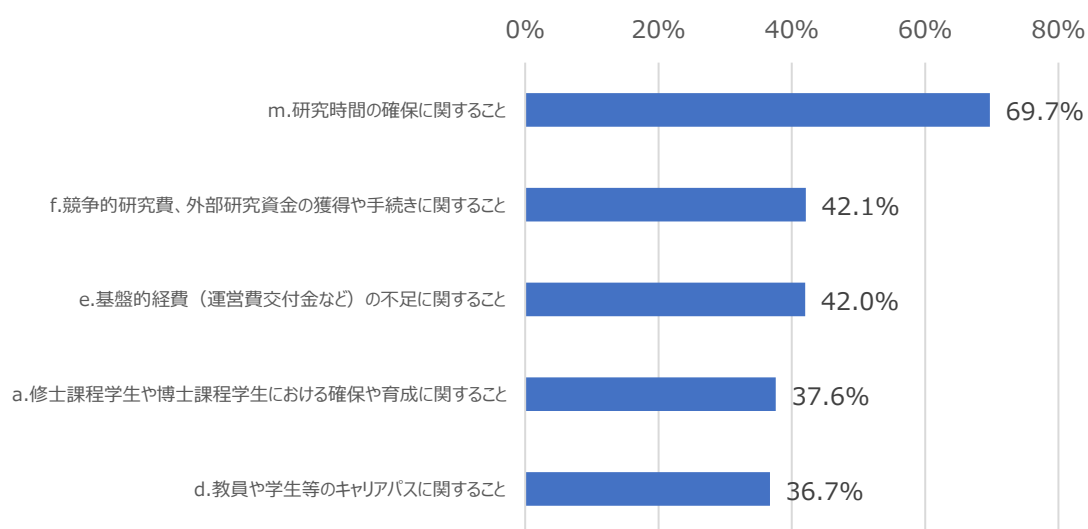
Q8では日常業務において、課題や問題点を感じる場面について回答を得た。最も多かった回答は「研究時間の確保に関すること」(69.7%)だった。2番目に多かった回答から20%以上の乖離があることから、多くの研究者の悩みの種になっていることがわかる。職種/役職別では「博士(後期)課程学生」(44.1%)「ポストドクター」(50.5%)が比較的低い数値だったのに対して、「教授」(75.2%)「准教授」(79.1%)と、一般的にキャリア後期に就く役職ほど、研究時間の確保に対する課題意識が強い傾向がみられた。

2番目に多かった回答は「競争的研究費、外部研究資金の獲得や手続きに関すること」(42.1%)だった。機関種別では「国立大学」(46.0%)「公立大学」(43.9%)「私立大学」(38.4%)「大学共同利用機関法人」(42.8%)と国立大学で最も高く、一方で私立大学では相対的に低い傾向がみられた。3番目に多かった回答は「基盤的経費(運営費交付金など)の不足に関すること」(42.0%)。機関種別では「国立大学」(57.0%)「公立大学」(39.9%)「私立大学」(28.9%)「大学共同利用機関法人」(53.5%)と、こちらも国立大学で最も高く、私立大学で相対的に低い結果となった。2つの回答項目はいずれも研究費に関連する。国立大学、公立大学、大学共同利用機関法人に所属する研究者の課題意識が強かったことから、私立大学と比較すると、研究費活用に制約がかかる環境であることが示唆された。

また、研究費に対する課題意識は学術分野別にも違いがみられた。「基盤的経費(運営費

交付金など)の不足に関すること」では「人文科学」(34.9%)「社会科学」(33.7%)だったのに対して、「理学」(51.2%)、「工学」(48.5%)と、いわゆる理系科目のほうが高いという結果になった。また、「競争的研究費、外部研究資金の獲得や手続きに関すること」においても「人文科学」(38.6%)「社会科学」(39.2%)だったのに対して、「理学」(46.3%)、「工学」(43.8%)と同様の傾向がみられた。

4番目に多かった回答は「修士課程学生や博士課程学生における確保や育成に関すること」(37.6%)、5番目に多かった回答は「教員や学生等のキャリアパスに関すること」(36.7%)だった。キャリアパスについての回答を職種／役職別にみると「教授」(30.9%)、「准教授」(35.9%)に対して、「博士(後期)課程学生」(43.4%)、「ポストドクター」(53.3%)と、一般に若手研究者が就くポジションで高い傾向がみられた。博士(後期)課程学生やポストドクターが学生のキャリアパスに課題意識を持つことは考えづらく、これは自身のキャリアパスを想定している可能性がある。

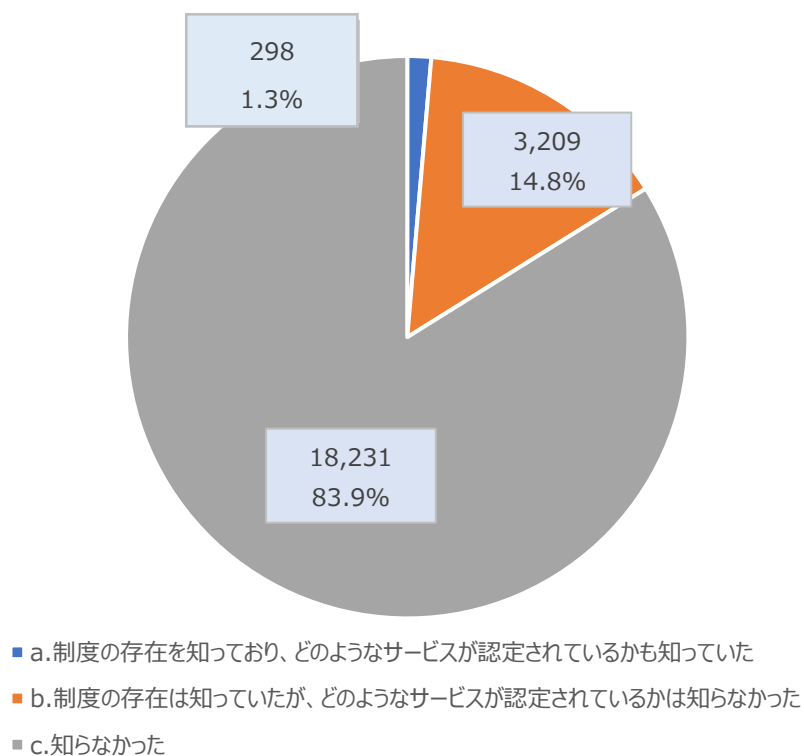


図表 2-7 日常業務における課題や問題点の上位 5 位 (複数回答)

2-2 (3) A-PRAS の認知度

Q9 では A-PRAS の認知度について回答を得た。全体で「知らなかった」(83.9%) と大半の研究者等が制度の存在を認知していない実態が明らかになった。「制度の存在を知っており、どのようなサービスが認定されているかも知っていた」と回答した者はわずか 1.4% に留まり、制度自体に加えて、制度がどのようなサービスを認定しているかについても、さらなる広報・周知の必要性が示唆された。

年齢別では「制度の存在は知っていたが、どのようなサービスが認定されているかは知らなかった」の割合が「25 歳～29 歳」(9.8%)、「30 歳～34 歳」(8.9%) に対して、「55 歳～59 歳」(18.7%)「60 歳～64 歳」(22.6%) と、年齢が高くなるに従い、認知度が上がる傾向がみられた。また、職種／役職別では「教授」(19.2%)「URA」(21.6%) が比較的高かったのに対して、「准教授」(13.9%)、「助教」(11.3%) における認知度は低かった。



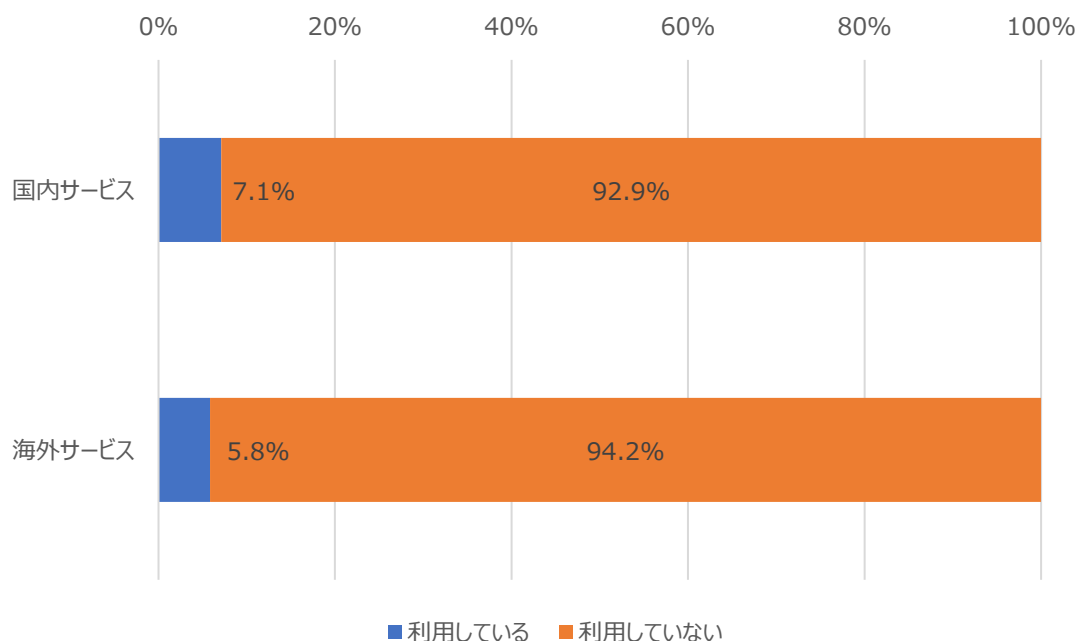
図表 2-8 A-PRAS の認知度

2-2 (4) 研究支援サービスの利用状況

Q11 では現在利用している国内企業が提供する研究支援サービス（以下、国内サービス）について回答を得た。国内サービスでは利用している回答者が全体の 7.1%、利用していない回答者が 92.9%だった。職種／役職別では「教授」（34.5%）、「准教授」（25.8%）、「助教」（17.1%）、「講師」（10.5%）とキャリアが長期に及ぶほど、研究支援サービスを利用している傾向がみられた。また、学術分野別では「保健」（28.6%）、「社会科学」（16.7%）で利用されている割合が高く、「人文科学」（7.0%）、「農学」（8.0%）では低かった。

Q12 では現在利用している海外企業が提供する研究支援サービスについて回答を得た。利用している回答者が全体の 5.8%、利用していない回答者が 94.2%だった。職種／役職別では国内サービスと同様の傾向がみられたが、学術分野別では「理学」（25.4%）の利用割合が最も高く、国内サービスとは異なる傾向がみられた。

なお、本設問は自由記述欄で回答を収集しているため、回答から空白や「なし」等の回答を除外することで集計を行っている。回答の一部には無料のコミュニケーションツールや解析ソフトが含まれていたことから、A-PRAS の対象となり得るサービスに限定すれば、利用者はより少ないことになる。



図表 2-9 研究支援サービスの利用状況

3. 大学等の研究現場における A-PRAS の認定を受けていない研究支援サービスに関する調査・分析

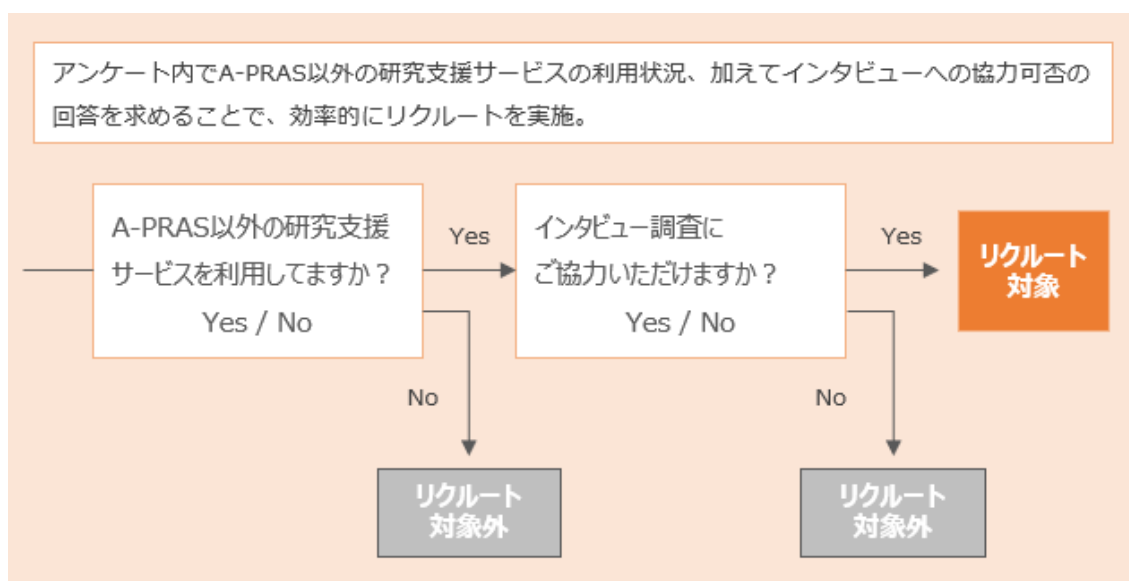
る調査・分析

3-1 調査方法

3-1 (1) リクルート方法／インタビュー方法

1-2 (1) のアンケート調査で回答された、現在利用している研究支援サービスおよびインタビュー協力の可否の回答を基にリクルートを実施。7名にインタビューを行った（1名はwordで回答）。

インタビューは文部科学省担当者が同席の上、受託者と対象者のデプスインタビュー形式を採用。1-2 (1) のアンケート回答を参考に、利用している研究支援サービスの概要や利用状況、利用しての感想等に加えて、日常業務における課題についてヒアリングを実施した。インタビュー実施期間は2023年2月13日～2月22日。



図表 3-1 リクルートの流れ

3-1 (2) インタビュー対象者

回答者	機関種別	性別	年齢	職種 / 役職	学術分野	ヒアリング日時
A氏	国立大学	男性	40歳～44歳	助教	林学	2023年2月13日(月)10時～11時
B氏	私立大学	男性	30歳～34歳	助教	情報科学	2023年2月14日(火)14時～15時
C氏	国立大学	男性	35歳～39歳	助教	人文学-その他	2023年2月16日(木)16時～17時
D氏	国立大学	男性	35歳～39歳	准教授	人文学-その他	2023年2月17日(金)15時～16時
E氏	国立大学	女性	45歳～49歳	准教授	農学	2023年2月21日(火)13時～14時
F氏	公立大学	男性	40歳～44歳	講師	心理学	2023年2月22日(水)10時～11時
G氏	私立大学	男性	40歳～44歳	講師	薬学	文書にて回答

回答者	対象サービス	サービスの説明
A氏	学会運営代行	学会の会員管理や学術大会の支援、事務処理、HP制作等を代行する。
B氏	情報共有ツールA	画像やドキュメント等を特定の組織内で共有する。同時編集機能やテキストの検索機能を搭載する。情報を階層分けして一覧化し、他アプリケーションともリンクできる。
	情報共有ツールB	画像やドキュメント等を特定の組織内で共有する。同時編集機能やテキストの検索機能を搭載する。情報をメモ形式で一覧化し、各々が画像やテキストを貼り付ける仕様になっている。
	画像共有サービス	画像への加工機能や共有機能を搭載している。
C氏	コンサルティングA	研究プロジェクト等に対してコンサルティングサービスを提供する。
D氏	研究機器調達	研究に活用される専門的な機器等を海外から調達する。
E氏	コンサルティングB	科研費の申請等に対してコンサルティングサービスを提供する。
F氏	補助金・助成金検索A	科研費や財団、民間企業等の補助金や助成金を検索できる。
G氏	補助金・助成金検索B	科研費や財団、民間企業等の補助金や助成金を検索できる。

図表 3-2 回答者の属性情報及び利用サービス一覧

3-1 (3) 回答項目

Q1. 日常の業務について

Q1-1. 研究内容を教えてください。

Q1-2. 通常、1日のうちにどのような業務に取り組むのでしょうか？

Q2. 利用している研究サービスについて

Q2-1. サービスの内容及び利用し始めた経緯について教えてください。

Q2-2. 利用したことでどのような効果が得られたと感じますか？

Q2-3. 利用し始める上で、また利用してみて課題に感じたことを教えてください。

Q3. 現在の研究における課題について

Q3-1. (アンケートでご回答いただいた内容について) 現在の状況等踏まえ、解消が難しい理由を教えてください。

Q3-2. 今後、どのように解消を目指しますか？

Q4. 身近で利用されている研究支援サービス、周辺の利用状況

Q4-1. ご自身の周囲ではどのような研究支援サービスが利用されているのでしょうか？

Q4-2. どのような研究者が研究支援サービスを利用する、もしくは利用することに前向きだと思えますか？

Q5. A-PRAS について

Q5-1. 本制度を大学等の研究者へ広く知っていただくために、どのような周知方法、広報が効果的だと思いますか？

Q5-2. 民間事業者が行う研究支援サービス(有料)の位置づけはどのようなものですか？また、どのようなサービスがあれば嬉しいと感じますか？

3-2 調査結果

3-2 (1) 利用サービスについての印象・感想

回答者	対象サービス	回答（一部抜粋）
A 氏	学会運営代行	<p><利用し始めた経緯></p> <p>✓ 従来、学術大会は自前で運営していたが、<u>コロナ禍でオンライン開催を余儀なくされ、以降依頼することになった。</u></p> <p><効果／課題／満足度></p> <p>✓ <u>学術大会を委託ができるようになったが負担が少なくなったと感じない。</u>現地開催のために開催場所を確保する手間がなくなったが、その代わりにベンダーとの折衝業務が増えた。</p>
B 氏	情報共有ツール A	<p><利用し始めた経緯></p> <p>✓ 以前に所属した研究室では、設立から 10 年～20 年が経過していたことから、<u>過去の研究結果や卒論をどう保存するかが課題となっていた。</u>本棚に冊子を保存することもあったが、数が膨大であり、スペースの確保が大変で探索性も良くなかった。wiki サービスで研究ログなどを残していたこともあったが、研究室のサーバー管理に多くの手間をとられる。それらを考えていた時に宇に本サービスを知った。他サービスも試したが、アカデミック利用は無料であることから利用を開始した。</p> <p><効果／課題／満足度></p> <p>✓ <u>サービス自体に大きな不満はない。</u></p>
C 氏	コンサルティング A	<p><利用し始めた経緯></p> <p>✓ 任期満了のタイミングで次の仕事が決まっていなかった。本サービスは研究者が設立した企業が展開するサービスであることから、学生からコンサルティング A 企業の担当者へ声をかけるよう薦められた。</p> <p><効果／課題／満足度></p> <p>✓ （同サービスには企業と研究者のマッチングサービスがあるが）企業と研究者のマッチングサービスは利用したことがない。研究者として登録しているが、言語学は自身の学術分野においては企業案件とマッチするものが少なく利用機会がない。登録している研究者は理系が多いようだ。</p>
D 氏	備品購入・リース・調達	<p><利用し始めた経緯></p> <p>✓ 当時、学内において立替払いは例外的な措置であり、<u>事務方から承諾を得るのに手間がかかった。</u>国内に代理店がない実験機器や、多くの会社が扱っていないソフトウェアを購入する際に本サ</p>

		<p>ービスを通すことで請求書払いが可能になるため使い始めた。インターネット検索をしてサービスを発見したと記憶している。</p> <p><効果／課題／満足度></p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ HPに掲載されている製品はすぐに見積書を送付してくれる。製品が掲載されていない場合でも取扱メーカーに入っていれば、ベンダー側（おそらくメーカーとやりとりして）仮見積を発行してくれる。海外から購入すると税金を請求される手間がかかるが、本サービスであれば購入金額に含まれるため、手続きが簡素化される。 ✓ <u>本サービスに対する満足度は高い。</u>国内の他代理店では相談後しばらく経過してから「扱っていない」という連絡を受けるケースもある。また、他代理店と比較すると納期も早い。実験途中で装置が故障し、至急必要になった場合に「1カ月後に用意ができる」と言われると困る。もし本サービスが利用できなくなると、書類の手続きに時間がかかり、不便になるだろう。
E氏	コンサルティング B	<p><利用し始めた経緯></p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ （助成金の申請について）前任大学では特にこういったサービスを受けなくても採択されていたが、<u>5年前に（本学に）着任してからは不採択が続いていた。</u> <p><効果／課題／満足度></p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ （申請の）<u>添削を受けてみて、申請書の内容は良くなったと感じている。</u>不採択ではあったが、その中で評価は良かった。
F氏	補助金・助成金検索 A	<p><利用し始めた経緯></p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ 数年前に twitter でおすすめする投稿を目にしたことから利用し始めた。<u>翌年度以降の科研費申請について検討していたところ、本サービス HP に「科研費以外のグラントにも目を向けよう」という旨の記載があり、その通りだと感じた。</u>官公庁系に加えて、財団や企業のグラントも閲覧できる。 <p><効果／課題／満足度></p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ 送られてくる自動メールを参照したことをきっかけに助成金を獲得できたことがあった。<u>本サービスがなければグラント獲得のチャンスを逃すことになるだろう。</u>
G氏	補助金・助成金検索 B	<p><利用し始めた経緯></p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ <u>大学から支給される教室経費だけでは、満足に研究を行うことができないため、外部資金の獲得は必須だ。</u>科研費を獲得できなかった場合、民間財団からの助成金のサポートを得る必要がある

		<p>が、数ある民間財団から自分の研究分野にフィットした助成金を探し出すのは、手間がかかる。</p> <p><効果／課題／満足度></p> <p>✓ 民間財団の助成情報だけでなく、AMED のような公的資金の情報も検索できるため、<u>自分の研究分野にフィットした助成金</u>の情報を素早く得ることができ、<u>重宝している</u>。また、助成金の情報を締切時期の早い順に並び変えることができるため、締切に近い助成金から優先的に研究計画書の執筆に取り掛かることも可能。</p>
--	--	---

「コロナ禍でオンライン開催を余儀なくされ」（A氏）、「過去の研究結果や卒論をどう保存するかが課題となっていた。」（B氏）、「（助成金申請について）5年前に（本学に）着任してからは不採択が続いていた。」（E氏）など、時間経過や社会状況の変化がきっかけで研究支援サービスを使い始めたという意見が複数挙がった。

また、一定の満足度があるが故に利用しつづけている側面もあり、自明のことではあるものの「サービス自体に大きな不満はない。」（B氏）、「自分の研究分野にフィットした助成金の情報を素早く得ることができ、重宝している。」（G氏）など、大半の回答者はサービスに満足している。

3-2 (2) 日常業務における課題

回答者	課題	回答（一部抜粋）
A氏	l.URA や事務職員等の研究支援人材の確保に関する事	✓ 研究施設を管理するための人員が不足している。また、学内施設の利用者対応業務など、 <u>必ずしも専門性が不要な業務も自分で行っている</u> 。事務職員等に依頼できると負担は減るだろう。
	g.研究機器の整備や利用に関する事	✓ 高額な分析機器を利用したい場合、大学内に同機器があるかもしれないが、 <u>共同利用機器に関する情報が整備されておらず、リーチできていない</u> 。
B氏	f.競争的研究費、外部研究資金の獲得や手続きに関する事	✓ <u>安定的に支給される資金があるとよい</u> 。研究室内でのストレージ管理や、論文や研究資料の閲覧のために研究費は必要だ。競争的資金で拠出は可能だが、必ず獲得できるわけではないため安定しない。「来年払えないかもしれない」という不安があると、とりあえず安いものや無料のサービスを利用することになる。仮に研究室ごとに「年間10万円支給」となれば、有料でも便利なサービスを利用することができ、研究もしやすい。
C氏	f.競争的研究費、外部研究資金の獲得や手続き	✓ 申請書作成から、実際に資金が交付されるのに半年～1年かかる。その間に研究の熱が冷めたり、他に関心が生じたりする場

	<p>に関すること</p>	<p>合がある。申請書などの書類作成に多くの手間がかかる。</p> <p>✓ 外部資金を獲得するためには、実現可能性や将来の成果を予測できる研究テーマを探す必要がある。それを探索するためにも、<u>一定程度用途を限定されない資金があるとよい</u>。本学において研究者個人に割り当てられる予算の仕組みがわかっていない。</p>
	<p>h.研究施設・場所の確保や整備に関すること</p>	<p>✓ 自分の研究室を持たず、事務職員の方もいるオフィスの一角で研究やその他業務を行っている。</p>
	<p>l.URA や事務職員等の研究支援人材の確保に関すること</p>	<p>✓ 研究内容を一般の方にわかりやすく説明することが苦手な方は多いためサポートするスタッフがいるとよい。一方で自分自身は研究計画書作成やプレゼンが得意であり、困ることは多くない。</p>
D 氏	<p>a.修士課程学生や博士課程学生における確保や育成に関すること</p>	<p>✓ 大学院生の人数が年々少なくなっている。海外では大学院生が実践的な研究に携わっているが、日本では給料が支払われない事情から共同研究者のように一緒に取り組むことができない。学生が修士や博士に関心を持たない要因になっているのではないか。</p>
	<p>e.基盤的経費（運営費交付金など）の不足に関すること</p>	<p>✓ <u>学部で年間 12 万の基盤経費が割り当てられているが、金額が少なく頼りにできない。</u>必然的に科研費や民間の助成金の獲得が求められ、資金が切れるプレッシャーと戦うことになる。本来は「○○という研究がしたいから」という動機で申請書を書くべきだが、多くの人が「獲らざるを得ないから」という動機で書いているのが現状ではないか。</p>
	<p>o.産学連携（共同研究、受託研究等）に関すること</p>	<p>✓ 国内の多くの大学は、院卒がそのままアカデミアに残ることを前提にしているが、海外では異分野に移る人も多い。学生のキャリアパスの確保という観点でも、民間企業等の異分野との交流は重要だ。</p>
E 氏	<p>i.研究試料、実験動物等の研究資材の準備に関すること</p>	<p>✓ 現在の大学に着任した際、<u>着任時に研究機器が揃っていなかった。</u>小規模大学で、1つの分野につき1人の教員がつく形となるため、他の教員と研究資料や材料、資材等のシェアが出来ず、自分でゼロから少しずつ集めていくことになる。</p>
	<p>m.研究時間の確保に関すること</p>	<p>✓ 研究以外の学内業務の事務作業が非常に多い。また現在、子育てをしているが、17時以降の会議や研修、その他活動を強いられそうになったり、就業時間内に終わらなかった作業を家でやれば良いという見方をされたりすることがある。その都度大学や他の教員に説明をして、理解を得ること自体にも時間が取ら</p>

		れてしまう。
F 氏	a. 修士課程学生や博士課程学生における確保や育成に関する事	✓ 医学部生の多くは大学卒業後に医師になり、研究に関心を持って続ける人は限定的である。大学院生も多くは社会人であるため、卒業後は元の職場に戻る。研究テーマについて長期的に担える人材が増えればよいと感じる。
	k. 技術職員、技術者の確保に関する事	✓ 研究には「研究計画立案」「データ取得」「データ分析」「論文執筆」の4つのステップがある。これら作業をどのように分担できるかがポイントだ。このなかで「研究計画立案」「論文執筆」は研究者のクリエイティビティとオリジナリティが出る。その他の作業に該当する <u>データ入力や分析の一部をサポートする方がいれば重要な作業により時間をかけることができる。</u>
G 氏	g. 研究機器の整備や利用に関する事	✓ AMED や JST の大型予算を獲得している一部の研究室を除くと、 <u>高額な機器は自身の予算で工面することができない。</u> 高額な機器は学部や部門が共通機器として提供してくれるのが理想だ。共通機器の購入を可能にする資金調達の方法として、公的資金の間接経費がある。直接経費の30%が間接経費として、学部に入る。本来であれば、間接経費の一部を研究の発展のため、共通機器の確保や既存の機器の更新に使用すべきだが、光熱費や派遣事務員の人件費に消えている。

アンケート調査にて回答が多かった基盤的経費、競争的研究費への課題について深掘りを行ったところ、「安定的に支給される資金があるとよい。」(B 氏)、「一定程度用途を限定されない資金があるとよい。」(C 氏)、「学部で年間12万の基盤経費が割り当てられているが、金額が少なく頼りにできない。」(D 氏)など、安定して活用できる少額の研究費の必要性を示唆する意見が散見された。自然科学分野では研究機器の利用等によって、多額の研究費が必要となる傾向がある。また、人文科学分野や社会科学分野では研究計画の企画や立案、日常的な Web サービスの利用を用途として安定的な資金需要がある。これら目的のためには大学内で割り当てられる基盤的経費では不足する場面が多いとみられる。

また、「(学内の) 共同利用機器に関する情報が整備されておらず、リーチできていない。」(A 氏)、「高額な機器は自身の予算で工面することができない。」(G 氏)など、研究機器や資材、設備についての課題も複数挙がった。理学、工学、医学などの分野で活用される研究機器は数十万円～数百万円の価格帯も珍しくない。できる限り費用負担が少ない形で活用できる環境が求められている。

「研究以外の学内業務の事務作業が非常に多い。」(E 氏)と、研究時間の確保に対する課題も挙がった。加えて、「必ずしも専門性が不要ない業務も自分で行っている。」(A 氏)、「データ入力や分析の一部をサポートする方がいれば重要な作業により時間をかけることがで

きる。」(F氏)など、事務職員や技術職員の体制整備の必要性を訴える回答もまた、研究時間の確保に影響する課題とみてよいだろう。一部研究者が研究活動以外、もしくは研究活動のなかでも専門性が求められない作業に従事している実態が明らかになった。

3-2 (3) A-PRAS の広報、周知方法

回答者	回答 (一部抜粋)
A氏	<ul style="list-style-type: none"> ✓ <u>口コミは重要であり、知り合いから勧められると「見てみようか」という気になる。普段から情報収集は同僚からすることが多い。利用者の声を Web サイトに掲載するとよいのではないか。</u> ✓ <u>チラシや SNS から情報収集することは多くない。</u>
B氏	<ul style="list-style-type: none"> ✓ <u>コロナ禍でオンラインの講義が増えた際に、他の研究者がどのように研究や教育をしているのかをインターネットで調べた。note に自身の研究室で利用しているサービスを書いている先生がおり、参考にしていた。サービスの体験や感想に関する記事を発信すると、使っている風景が想像できるため、効果的ではないか。利便性を訴えるために(今の時代に)チラシはどうかと思う。</u>
C氏	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 困ったことがあった際に外部サービスを探すという発想に至らない。 ✓ <u>(学会での周知について) よいと思う。展示ブースで認定サービスを紹介するのは効果的ではないか。対面の学術大会も増えてきている。</u>
D氏	<ul style="list-style-type: none"> ✓ <u>情報収集はインターネット検索で行うことが多い。業者選定は近い分野の研究者に評判を聞くことがあるが、必要な情報がはっきりしていない段階ではそれもできないため、まずはインターネットで調べる。</u> ✓ <u>チラシは膨大な量が送られてくるため、多くの研究者がしっかり見ていないと思われる。SNS で活動していないため、周知されても気がつかないだろう。</u> ✓ <u>(学会での周知について) 学術大会での出展で企業を認識することはある。</u>
E氏	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 大学からの広報のメールは無視してしまうことが多い。 ✓ <u>信頼性という側面から言うと、学会の WEB サイトで、わかりやすいバナー等を掲げると効果があるかもしれない。学会のなかでセミナーや展示をするのも良いだろう。</u>
F氏	<ul style="list-style-type: none"> ✓ サービス側に「こういう認定を受けています」ということがアピールされていることで制度を認知するのではないか。 ✓ <u>SNS での情報収集は積極的に行う。おおすすめの書籍やサービスについて発信している研究者も多いため、フォローするようにしている。省庁や自治体の情報は災害があった時に閲覧する程度であり、SNS で A-PRAS について発信されても目にしないだろう。</u> ✓ 自分宛のチラシには目を通すようにしている。一方、たくさんのチラシに紛れることも多い。 ✓ <u>学会に協力していただき、シンポジウムが開催されれば関心を持つだろう。自身の分野では厚労省以外の省庁や自治体の話を聞ける機会が少ない。</u>

G氏	—
----	---

「学会の WEB サイトで、わかりやすいバナー等を掲げると効果があるかもしれない。」(E氏)、「学会に協力していただき、シンポジウムが開催されれば関心を持つだろう。」(F氏) など、各学会での広報、周知活動が有効であるとする意見が最も多かった。

また、具体的な手法如何に関わらず、「口コミは重要であり、知り合いから勧められると「見てみようか」という気になる。」(A氏)、「他の研究者がどのように研究や教育をしているのかをインターネットで調べた」(B氏) など、他研究者からの評判を判断材料とするケースも多いとみられる。

逆に否定的な意見が多かったのは大学や研究者個人へのチラシ送付 (DM 送付) だ。「利便性を訴えるために (今の時代に) チラシはどうかと思う。」(B氏) や「チラシは膨大な量が送られてくるため、多くの研究者がしっかり見ていないと思われる。」(D氏) など、DX等のトレンドと逆行するという意見や、他チラシと紛れて認知されない可能性についての言及があった。

賛否が分かれたのはインターネット活用だ。「note に自身の研究室で利用しているサービスを書いている先生がおり、参考にしていた。」(B氏)、「SNS での情報収集は積極的に行う。」(F氏)、など SNS やインターネット検索で積極的に情報収集を行うとする回答者も散見された一方で、「チラシや SNS から情報収集することは多くない。」(A氏)「SNS で活動していないため、周知されても気がつかないだろう。」(D氏) など、否定的な意見もあった。

4. 海外の研究現場における研究支援サービスに関する調査・分析

4-1 調査方法

4-1 (1) リクルート方法／インタビュー方法

英国のオックスフォード大学やケンブリッジ大学、米国のハーバード大学やカリフォルニア工科大学等が HP 上に公開する教員情報から日本人研究者 110 名をリストアップ。同研究者らを対象に 1-2 (1) とおおよそ同様の内容のプレアンケートを依頼し、8 件の回答を得た。アンケート内の現在利用している研究支援サービスおよびインタビュー協力の可否の回答を参考にリクルートを実施した。4 件程度のリクルートを目指したが、適した対象者を十分に集めることができなかつたため、代替手段として国内の研究現場において海外企業が提供する研究支援サービスを利用している研究者のリクルートを行った。本リクルートにおいては 1-2 (1) と同様の方法で 3 名のインタビューを実施した。

インタビュー方法は 1-2 (1) と同様の方法を採用した。インタビュー実施期間は 2023 年 1 月 27 日～2 月 21 日。

リクルート方法

①プレアンケート、②インタビューと2つのステップを経て実施。

①プレアンケート：公開情報より、海外研究者へアンケート回答を依頼する。



約100件依頼



②インタビュー：回答者の中から、特定のサービスを利用している者にインタビューを依頼する。



図表 4-1 リクルートの流れ

4-1 (2) インタビュー対象者

回答者	機関種別	性別	年齢	職種／ 役職	学術分野	ヒアリング日時
H氏	海外	男性	35歳～39歳	Assistant Professor	その他	2023年1月27日(金) 14時30分～15時30分
I氏	公立大学	男性	35歳～39歳	講師	商学・経済	2023年2月9日(木) 13時～14時
J氏	私立大学	男性	50歳～54歳	その他 (教授兼 URA)	生物	2023年2月14日(火) 10時30分～11時30分
K氏	国立大学	男性	45歳～49歳	助教	数学	2023年2月21日(火) 15時～16時

回答者	対象サービス	サービス分類の説明
H氏	英文校正	英語論文をチェックし、文法や単語の間違い等を訂正する。同じ学術分野に詳しいエディターが担当するが多い。
	研究者向け 情報ポータルサイト	研究や研究者個人、研究者のキャリア等についての記事が掲載されるサイト。
I氏	ノートアプリ	テキスト入力機能に加えて、業種・業界に特化したサービスも存在する。
	文献管理ツール	文書のフォルダ管理機能、リンク機能などを搭載したツール。研究領域では参考文献リストの作成の補助などに用いられる。
J氏	ニュース・論文掲載 サイト	研究結果や論文発表のプレスリリース等が掲載されるサイト。
K氏	数値解析ソフト	数式計算や統計解析の処理を行うソフト

図表 4-2 回答者の属性情報及び利用サービス一覧

4-1 (3) 回答項目

Q1. 日常の業務について

Q1-1. 研究内容を教えてください。

Q1-2. 通常、1日のうちにどのような業務に取り組むのでしょうか？

Q2. 利用している研究サービスについて

Q2-1. サービスの内容及び利用し始めた経緯について教えてください。

Q2-2. 利用したことでどのような効果が得られたと感じますか？

Q2-3. 利用し始める上で、また利用してみて課題に感じたことを教えてください。

Q3. 現在の研究における課題について

Q3-1. (アンケートでご回答いただいた内容について) 現在の状況等踏まえ、解消が難しい理由を教えてください。

Q3-2. 今後、どのように解消を目指しますか？

Q4. 身近で利用されている研究支援サービス、周辺の利用状況

Q4-1. ご自身の周囲ではどのような研究支援サービスが利用されているのでしょうか？

Q4-2. どのような研究者が研究支援サービスを利用する、もしくは利用することに前向きだと思えますか？

Q5. A-PRAS について

Q5-1. 本制度を大学等の研究者へ広く知っていただくために、どのような周知方法、広報が効果的だと思いますか？

Q5-2. 民間事業者が行う研究支援サービス(有料)の位置づけはどのようなものですか？また、どのようなサービスがあれば嬉しいと感じますか？

4-2 調査結果

4-2 (1) 利用サービスについての印象・感想

回答者	対象サービス	回答（一部抜粋）
H氏	英文校正	<p><利用し始めた経緯></p> <p>✓ 他サービスも知っていたが、<u>同分野の研究者で利用実績があるから使い始めた。</u></p> <p><効果／課題／満足度></p> <p>✓ 英語の文法的間違いは直されるが、必ずしも見違えるような文章で返ってくるわけではない。（中略）<u>クオリティーに満足したことはない。</u></p>
I氏	ノートアプリ	<p><利用し始めた経緯></p> <p>✓ 修士課程、博士課程の時代には大学側が保有する文献管理ソフトと Word 等を組み合わせて論文を管理していた。<u>本学で同じ環境を再現できないため、代替りの方法を探す必要があった。</u>知ったきっかけは SNS で推奨する研究者が多く、一定期間無料だったことから始めた。</p> <p><効果／課題／満足度></p> <p>✓ 論文執筆時には引用部分を探すのに時間がかかる。<u>これを利用することで時間が効率的に使える。</u></p>
	文献管理ツール	<p><効果／課題／満足度></p> <p>✓ <u>サービスを利用したことで、論文を読む効率が上がった。</u>一方で、「アイデアが湧く」という効果は感じない。理論から入る研究者は先行研究を読み込み、着想を得ることもあるが、自分自身は実証から入る研究者。この発想のスタイルだと関連論文からアイデアを得ることは少ない。</p>
J氏	ニュース・論文掲載サイト	<p><利用し始めた経緯></p> <p>✓ <u>（他校の）取り組みに倣い、本学でも戦略的な研究成果の国際発信の取り組みを開始した。</u></p> <p><効果／課題／満足度></p> <p>✓ 掲載されることで、海外マスメディアやソーシャルメディアでカバーされるなどして、オルトメトリクススコア（論文の閲覧数、ダウンロード数、ツイッターなどソーシャルメディアや報道機関でのコメント数などを反映）で良いパフォーマンスが出ている。世界で論文を知っていただけなのが利点だ。</p> <p>✓ <u>サービスには大きな課題は感じていない。</u></p>
K氏	数値解析ソフト	<p><利用し始めた経緯></p>

	<p>✓ 学生時代から利用していた。(中略) 無料で使えるツールがあるという評判を聞き、使い始めた。</p> <p><効果/課題/満足度></p> <p>✓ 研究面では、計算に必要な時間を短縮できた。教育面では、過去に学生の試験問題を作ったときには、模範解答の確認に役立った。<u>計算の精度には満足している。</u></p>
--	---

「本学で同じ環境を再現できないため、代替りの方法を探す必要があった。」(I氏)、「(他校の) 取り組みに倣い、本学でも戦略的な研究成果の国際発信の取り組みを開始した。」(J氏) など、研究支援サービスを利用し始めたきっかけとして、研究者自身の置かれた環境の変化や大学の戦略の影響が挙げられた。

また、「同分野の研究者で利用実績があるから使い始めた。」(H氏) など、企業の国籍を判断基準として設けているのではなく、自身のニーズを満たすサービスが図らずも海外のサービスであったというケースが多かった。一方、「掲載されることで、海外マスメディアやソーシャルメディアでカバーされるなどして」(J氏) という意見にみられるように、広報活動に用いられるサービスにおいては、波及効果の観点から、グローバルに展開するサービスが好まれる傾向があるようだ。

英文校正サービスにおいて「クオリティーに満足したことはない。」(H氏) と、否定的な意見もあったが、その他のサービスには大きな不満を持つ回答者はいなかった。

4-2 (2) 日常業務における課題

回答者	課題	回答 (一部抜粋)
H氏	f.競争的研究費、外部研究資金の獲得や手続きに関すること	<p>✓ <u>ポストドクターが独立するためには、獲得した助成金の多寡も問われるが、独立前に助成金を獲得するのが難しい。</u>(中略) 日本は独立が難しいが若い時から助成金が獲得でき、ヨーロッパやアメリカは独立するハードルは日本より低いが、独立しないで研究費の応募資格を得ることは難しいという特徴がある。</p>
	g.研究機器の整備や利用に関すること	<p>✓ 研究業界では購入のために逐次見積りをとる必要があり、網羅的に価格を比較できない。ベンダー側は購入者がどの程度お金を出せそうかを見定めて値段を決めているのではないか。交渉して値段が決まることあるのは理解できるが、消費者としての購買行動と合っておらず、フラストレーションを感じる。</p>
I氏	e.基盤的経費(運営費交付金など)の不足に関すること	<p>✓ <u>学内で十分に論文を閲覧できない。</u>経営学分野においてはメインストリーマーが欧米の研究であり、新たな研究のためにはそれらトップジャーナルを参照する必要がある。</p> <p>✓ 論文の出版時にも1回で約40万円の費用がかかる。基礎研究</p>

		費から拠出することは難しいため、何等かの外部資金を得る必要がある。
	m.研究時間の確保に関すること	✓ 前職は企業勤めだったこともあり、 <u>庶務業務は事務職や派遣社員の方に依頼できていたが、本学では教員自身が行わないといけない。</u> (中略) こうした業務をアウトソーシングできれば研究時間の確保がしやすくなるだろう。
J氏	l.URA や事務職員等の研究支援人材の確保に関すること	✓ (URA の) 業務が属人的になっている。研究をめぐる世界的な情勢や、政府や所属機関の研究戦略の変化に合わせて、URA のミッションも変わる。現人員が目前の課題解消のために専門性を高めているが、15 年後にはいなくなってしまうだろう。次世代に向けて質の高い人材を育成する必要があるが、システムティックな教育体制は整備に至っていない。
	d.教員や学生等のキャリアパスに関すること	✓ 日本では研究者のポスト競争は苛烈であり、PI になれない、教授になれない研究者も多い。また「雇い止め」も社会問題化している。技術職員や URA へのトラックチェンジが一種の救済策として期待される向きもあるが、当人の能力やモチベーションや、機関でのニーズなどに制約があり、残念ながらそうそう簡単にマッチングは成立しないという印象。
	m.研究時間の確保に関すること	✓ <u>今日の日本の研究者は研究以外に時間を取られることが多い。</u> 例えば、補助金等の報告書作成に多くの時間がとられる。最近では残業時間が長いと注意を受けることもあり、まとまった研究時間を取ることが難しい。
K氏	r.その他	<p>✓ 真っ当な雇用が欲しい。現在所属している大学のプロジェクトは今年度で終了するため、自分の雇用契約も 3 月末で終了する。</p> <p>✓ 数学は、特に、同じ分野の研究を数十年単位で継続的に行うことの出来る環境が重要な研究である。現在の所属組織で行う研究が、次の所属組織で行う研究に役立つ保証はない。数年単位で雇用先や研究内容が変わることは、研究面においてもデメリットしかない。</p>

3-2 と同様に、基盤的経費・競争的研究費に関する課題、事務職員や技術職員の体制整備(転じて研究時間の確保)に関する課題が多く挙がった。

研究費については「ポストドクターが独立するためには、獲得した助成金の多寡も問われるが、独立前に助成金を獲得するのが難しい。※」(H氏)、とキャリア段階と資金調達の仕組みのミスマッチを指摘する意見や、「学内で十分に論文を閲覧できない。」(I氏)と、基盤的経費の不足が研究に負の影響を与えていることが示唆された。

事務職員や技術職員の体制整備については「今日の日本の研究者は研究以外に時間を取られることが多い。」(J氏)という概況についての指摘に加えて事務職員や技術職員の体制整備では「(前職では)庶務業務は事務職や派遣社員の方に依頼できていたが、本学では教員自身が行わないといけない。」(I氏)と、その原因を示唆するコメントが得られた。

※H氏は欧州の大学に所属しているため、本回答も自身の環境下を前提としている。

4-2 (3) A-PRAS の広報、周知方法

回答者	回答 (一部抜粋)
H氏	—
I氏	<ul style="list-style-type: none"> ✓ A-PRAS 認定サービスを利用した研究者の「よかった」という声¹が他研究者に伝わると、評判が伝播するのではないか。そうした意味で、A-PRAS を利用した研究者に「率直な感想をぜひツイートしてください」とお願いするなどの方法はお金もかからず一定程度の効果を規定できるのではないか。 ✓ <u>学会の全国大会でのチラシ配布や学会のメーリングリストで案内するなどの方法がよい。</u>各業界のトップに位置する学会で周知すれば全体の7割程度にリーチするのではないか。
J氏	<ul style="list-style-type: none"> ✓ <u>学会などでブースを出したり、チラシを配るとよいのではないか。</u>学会では多くの研究者が情報収集を目的に能動的に端から端まで見て回る。 ✓ <u>官公庁の twitter は頻繁に見ない。フラットな情報発信は素通りされる傾向があるだろう。</u>ユニークな取り組みや知識体系について、ライブ性や物語性をもって情報発信を行う人が多くの関心を得るのが twitter の特徴だ。<u>紙媒体(チラシ)も毎日届くため埋もれてしまう。</u>
K氏	<ul style="list-style-type: none"> ✓ <u>チラシやメールでの案内は非常に迷惑である。</u>学会での宣伝ももってのほか。また、文科省のお墨付きというのも効力を感じない。同じ分野の研究者の評判の方が、よほど信ぴょう性が高い。 ✓ 認知度ということであれば、<u>Twitter 等の SNS で宣伝されていれば目には入るかもしれない。</u>かと言って、「では使ってみよう」とはならない。例えば JREC-IN や、researchmap のようなサイトに掲載されていれば、多少は効果があるかもしれない。

「学会の全国大会でのチラシ配布や学会のメーリングリストで案内するなどの方法がよい。」(I氏)「学会などでブースを出したり、チラシを配るとよいのではないか。」(J氏)など、3-2と同様に学会での広報、周知が効果的とする意見が複数挙がった。

「官公庁の twitter は頻繁に見ない。フラットな情報発信は素通りされる傾向があるだろう。」(J氏)、「Twitter 等の SNS で宣伝されていれば目には入るかもしれない。かと言って、『では使ってみよう』とはならない。」(K氏)、「チラシやメールでの案内は非常に迷惑である。」(K氏)など、チラシや SNS での広報活動には否定的な意見が多かった。

5.提言

■ 求められる研究支援サービス

アンケート調査 Q8「日常業務において、課題や問題点を感じる場面について最も適切なものを選択してください。」という設問に対して、最も多かった回答は「研究時間の確保に関すること」(69.7%)であった。2番目に多かった回答から20%以上の乖離があることから、多くの研究者の悩みの種になっていることがわかる。

インタビュー調査では「今日の日本の研究者は研究以外に時間を取られることが多い。」「事務職員や技術職員の体制整備では庶務業務は事務職や派遣社員の方に依頼できていたが、本学では教員自身が行わないといけない。」など、研究者が研究以外の庶務業務に多くの時間を割いている実態が明らかになった。

また、「研究には『研究計画立案』『データ取得』『データ分析』『論文執筆』の4つのステップがある。(中略)このなかで『研究計画立案』『論文執筆』は研究者のクリエイティビティとオリジナリティが出る。その他の作業に該当するデータ入力や分析の一部をサポートする方がいれば重要な作業により時間をかけることができる。」という回答に現れるように、研究活動においても専門的スキルが求められない業務に一定の工数を割いていることもわかった。

アンケート調査 Q8で2番目に多かった回答は「競争的研究費、外部研究資金の獲得や手続きに関すること」(42.1%)、3番目に多かった回答は「基盤的経費(運営費交付金など)の不足に関すること」(42.0%)であった。いずれも研究費に関連する回答であり、こちらも研究活動の障壁になっている可能性が示唆された。

インタビュー調査では「安定的に支給される資金があるとよい。」「一定程度用途を限定されない資金があるとよい。」など、安定して活用できる少額の研究費の必要性を示唆する意見が複数挙がった。人文科学、社会科学、コンピュータサイエンス等の学術領域では必ずしも多額の研究費は必要とされないが、研究計画の企画や立案、日常的なWebサービスの利用を用途として安定的な資金需要があることがわかった。

また、「(学内の)共同利用機器に関する情報が整備されておらず、リーチできていない。」「高額な機器は自身の予算で工面することができない。」など、研究機器や資材、設備についての回答も複数挙がった。理学、工学、医学などの分野で活用される研究機器は数十万円～数百万円の価格帯も珍しくない。基盤的経費や競争的研究費を、できる限り効率的に活用できる環境が求められている。

アンケート調査 Q11「日常的に利用している国内企業が提供する研究支援サービスを教えてください。」の設問に対して、国内企業が提供するサービスを利用している回答者は全体でわずか7.1%。残りの92.9%は学内リソースのみで研究活動を行っていることになる。

今後、研究活動を活性化するためには大学等を取り巻くネットワーク間で、リソースの「選択と集中」が重要になる。研究者が自身の研究活動に集中できるように、ノンコア業務は気兼ねなくアウトソーシングできる環境が必要だ。それにより、「専門的スキルが不要な業務への従事」を減らし、「基盤的経費、競争的研究費の不足」が起こらないようにしなければならない。前者の目的のためには英文校正、各種申請書作成、人材サービスなど、後者の目的のためには学術系クラウドファンディングサービス、備品購入サービスなどのさらなる活用が求められる。

■ 求められる広報、周知活動

では、各研究支援サービスが活用されるために求められることとは何か。自明のことではあるが、いかにサービスが優れていても、存在が認知されていなければ利用されることはない。インタビュー調査では、一部研究者からは「困ったことがあった際に外部サービスを探すという発想に至らない。」「チラシや SNS から情報収集することは多くない。」とする意見もあり、状況への慣れから外部サービスに頼る発想にならない可能性が示唆されている。また、自身が受けた助成金申請コンサルティングサービスに対して「前任大学では特にこういったサービスを受けなくても採択されていたが、5年前に（本学に）着任してからは不採択が続いていた。（申請の）添削を受けてみて、申請書の内容は良くなったと感じている。」と答えた回答者がいたことから、一度利用すればその後継続利用される可能性も十分ある。すなわち、知る「きっかけ」や利用する「きっかけ」が重要なのである。

インタビュー調査 Q5-1.「本制度を大学等の研究者へ広く知っていただくために、どのような周知方法、広報が効果的だと思いますか？」の設問に対して、最も多かった回答は学会での広報、周知活動が有効であるとする意見だ。アンケート調査 Q11 の結果から、研究支援サービスは「保健」分野や「社会科学」分野で多く利用される傾向があるため、医学系の学会や、商学・経済学系の学会で講演やチラシ配布を行うことで、多くの研究者に A-PRAS がさらに認知されるはずだ。広報活動においては A-PRAS 認定済みの企業と連携し、制度自体に加えて各サービスの内容も十分に周知することが望ましい。研究者の利便性向上に加え、企業にとって文部科学省からの認定が宣伝できる貴重な機会となるだろう。

インタビュー調査 Q2-1.「サービス内容及び利用し始めた経緯について教えてください。」という設問に対して、複数の研究者が「口コミは重要であり、知り合いから勧められると『見てみようか』という気になる。」「他の研究者がどのように研究や教育をしているのかをインターネットで調べた」など、他研究者からの評判が契機になったことを挙げた。こうした観点から、上記企業連携に加えて、利用者との協力も重要だ。利用者との共同講演やチラシにインタビュー等を挿入するなどの工夫を加えることで訴求効果は高まるだろう。

逆に否定的な意見が多かったのは大学や研究者個人へのチラシ送付（DM 送付）だ。「利

便性を訴えるために（今の時代に）チラシはどうかと思う。」や「チラシは膨大な量が送られてくるため、多くの研究者がしっかり見ていないと思われる。」など、DX等のトレンドと逆行するという意見や、他チラシと紛れて認知されない可能性についての言及があった。SNSなどインターネットを通しての広報活動に対しては賛否が分かれた。

上記した「きっかけ」をつくる取組みとしてさらなる広報、周知活動が求められる。

■ まとめ

我が国は世界で最も少子高齢化が進行しているとされ、将来的に労働生産人口が減少の一途を辿ることは確定的である。今後、テクノロジーの分野で世界的なプレゼンスを保持、もしくは向上させるためには、一人当たりの研究者が生む成果を増やす必要がある。そのために成長の阻害要因は可能な限り排除しなければならない。

本調査では主にアンケートとインタビューを通じて、研究現場が抱える課題や研究支援サービスの利用状況を調査した。その結果、研究者の多くが研究時間の確保、研究資金の獲得や活用方法について課題を抱えており、それらを解消するために活用されるべき民間企業の研究支援サービスも、まだ十分に利用されていないことが明らかになった。一方で、すでに利用されているサービスへの満足度は概ね高いこともわかった。

研究支援サービスの利用が促進されれば、研究者は自身の専門領域に注力し、必ずや成果を挙げるだろう。現状ではサービスを知る「きっかけ」や利用する「きっかけ」が十分になく、これが成長の阻害要因になっている可能性がある。A-PRAS認定サービスを拡充することに並行して、学会等への周知を通して認知度を高め、各サービスの利用をさらに促進する。これこそが阻害要因を排除、延いては我が国の研究力向上の契機となるはずだ。

Appendix

単純集計

1-2 (2) アンケート調査

[Q01] 機関種別

No.	カテゴリ名	n	%
1	a. 国立大学	9,334	42.9%
2	b. 公立大学	1,414	6.5%
3	c. 私立大学	10,719	49.3%
4	d. 大学共同利用機関法人	271	1.2%
	全体	21,738	100.0%

[Q03] 性別

No.	カテゴリ名	n	%
1	a. 男性	14,845	68.3%
2	b. 女性	6,187	28.5%
3	c. その他/回答しない	706	3.2%
	全体	21,738	100.0%

[Q04] 年齢

No.	カテゴリ名	n	%
1	a. 25歳未満	51	0.2%
2	b. 25歳～29歳	1,128	5.2%
3	c. 30歳～34歳	1,796	8.3%
4	d. 35歳～39歳	2,497	11.5%
5	e. 40歳～44歳	3,209	14.8%
6	f. 45歳～49歳	3,597	16.5%
7	g. 50歳～54歳	3,252	15.0%
8	h. 55歳～59歳	2,834	13.0%
9	i. 60歳～64歳	2,434	11.2%
10	j. 65歳以上	940	4.3%
	全体	21,738	100.0%

[Q05] 職種/役職

No.	カテゴリ名	n	%
1	a. 教授	7,296	33.6%
2	b. 准教授	5,283	24.3%
3	c. 助教	3,426	15.8%
4	d. 講師	2,345	10.8%
5	e. 博士（後期）課程学生	1,395	6.4%
6	f. ポストドクター	285	1.3%
7	g. その他研究員	453	2.1%
8	h. 技術職員・技術者	768	3.5%
9	i. URA	134	0.6%
10	j. その他	353	1.6%
	全体	21,738	100.0%

[Q06] 学術分野 (総合)

No.	カテゴリー名	n	%
1	人文科学	1,935	8.9%
2	社会科学	2,522	11.6%
3	理学	3,019	13.9%
4	工学	3,362	15.5%
5	農学	1,369	6.3%
6	保健	6,758	31.1%
7	その他部門	2,773	12.8%
	全体	21,738	100.0%

[Q06] 学術分野

No.	カテゴリー名	n	%
1	a.文学	529	2.4%
2	b.史学	351	1.6%
3	c.哲学	148	0.7%
4	d.人文学-その他	907	4.2%
5	e.法学・政治	512	2.4%
6	f.商学・経済	903	4.2%
7	g.社会学	352	1.6%
8	h.社会科学-その他	755	3.5%
9	i.数学	315	1.4%
10	j.情報科学	520	2.4%
11	k.物理	545	2.5%
12	l.化学	437	2.0%
13	m.生物	830	3.8%
14	n.地学	197	0.9%
15	o.理学-その他	175	0.8%
16	p.機械・船舶	570	2.6%
17	q.電気・通信	602	2.8%
18	r.土木・建築	568	2.6%
19	s.応用化学	430	2.0%
20	t.応用理学	100	0.5%
21	u.原子力	44	0.2%
22	v.材料	319	1.5%
23	w.繊維	7	0.0%
24	x.航空	70	0.3%
25	y.経営工学	58	0.3%
26	z.工学-その他	594	2.7%
27	aa.農学	235	1.1%
28	ab.農芸化学	365	1.7%
29	ac.農業工学	62	0.3%
30	ad.農業経済	72	0.3%
31	ae.林学	88	0.4%
32	af.林産	35	0.2%
33	ag.獣医・畜産	251	1.2%
34	ah.水産	123	0.6%
35	ai.農学-その他	138	0.6%
36	aj.医学	3,287	15.1%
37	ak.歯学	436	2.0%
38	al.薬学	800	3.7%
39	am.看護	1,205	5.5%
40	an.保健-その他	1,030	4.7%
41	ao.心理学	619	2.8%
42	ap.家政	258	1.2%
43	aq.教育	1,296	6.0%
44	ar.芸術-その他	600	2.8%
	全体	21,738	100.0%

[Q08] 課題や問題点

No.	カテゴリー名	n	%
1	a. 修士課程学生や博士課程学生における確保や育成に関すること	8,170	37.6%
2	b. 若手研究者（ポスドク）における確保や育成に関すること	4,856	22.3%
3	c. 研究者ネットワーク構築に関すること	3,933	18.1%
4	d. 教員や学生等のキャリアパスに関すること	7,979	36.7%
5	e. 基盤的経費（運営費交付金など）の不足に関すること	9,127	42.0%
6	f. 競争的研究費、外部研究資金の獲得や手続きに関すること	9,149	42.1%
7	g. 研究機器の整備や利用に関すること	6,099	28.1%
8	h. 研究施設・場所の確保や整備に関すること	6,175	28.4%
9	i. 研究試料、実験動物等の研究資材の準備に関すること	1,949	9.0%
10	j. データ整理・知財管理に関すること	4,165	19.2%
11	k. 技術職員、技術者の確保に関すること	4,611	21.2%
12	l. URAや事務職員等の研究支援人材の確保に関すること	2,825	13.0%
13	m. 研究時間の確保に関すること	15,156	69.7%
14	o. 産学連携（共同研究、受託研究等）に関すること	3,139	14.4%
15	p. 海外との共同研究やネットワークの構築に関すること	3,009	13.8%
16	q. 広報及びアウトリーチに関すること	2,068	9.5%
17	r. その他（ ）	1,428	6.6%
18	s. 特になし	730	3.4%
	全体	21,738	100.0%

[Q09] A-PRAS認知

No.	カテゴリー名	n	%
1	a. 制度の存在を知っており、どのようなサービスが認定されているかも知っていた	298	1.4%
2	b. 制度の存在は知っていたが、どのようなサービスが認定されているかは知らなかった	3,209	14.8%
3	c. 知らなかった	18,231	83.9%
	全体	21,738	100.0%

[Q11] 研究支援サービスの利用状況（国内）

国内サービス		
利用している	1,548	7.1%
利用していない	20,190	92.9%
合計	21,738	100.0%

[Q12] 研究支援サービスの利用状況（海外）

海外サービス		
利用している	1,266	5.8%
利用していない	20,472	94.2%
合計	21,738	100.0%

クロス集計（課題と問題点）

1-2 (2) アンケート調査

[Q08] 課題や問題点 × [Q01] 機関種別

		合計	[Q08] 課題や問題点						
			a. 修士課程学生や博士課程学生における確保や育成に関すること	b. 若手研究者（ポスドク）における確保や育成に関すること	c. 研究者ネットワーク構築に関すること	d. 教員や学生等のキャリアパスに関すること	e. 基盤的経費（運営費交付金など）の不足に関すること	f. 競争的研究費、外部研究資金の獲得や手続きに関すること	g. 研究機器の整備や利用に関すること
全体		21738 100.0%	8170 37.6%	4856 22.3%	3933 18.1%	7979 36.7%	9127 42.0%	9149 42.1%	6099 28.1%
[Q01] 機関種別	a. 国立大学	9334 100.0%	4029 43.2%	2541 27.2%	1625 17.4%	3500 37.5%	5325 57.0%	4296 46.0%	2710 29.0%
	b. 公立大学	1414 100.0%	556 39.3%	259 18.3%	304 21.5%	491 34.7%	564 39.9%	621 43.9%	404 28.6%
	c. 私立大学	10719 100.0%	3491 32.6%	1955 18.2%	1959 18.3%	3890 36.3%	3093 28.9%	4116 38.4%	2898 27.0%
	d. 大学共同利用機関法人	271 100.0%	94 34.7%	101 37.3%	45 16.6%	98 36.2%	145 53.5%	116 42.8%	87 32.1%

[Q08] 課題や問題点 × [Q03] 性別

		合計	[Q08] 課題や問題点						
			a. 修士課程学生や博士課程学生における確保や育成に関すること	b. 若手研究者（ポスドク）における確保や育成に関すること	c. 研究者ネットワーク構築に関すること	d. 教員や学生等のキャリアパスに関すること	e. 基盤的経費（運営費交付金など）の不足に関すること	f. 競争的研究費、外部研究資金の獲得や手続きに関すること	g. 研究機器の整備や利用に関すること
全体		21738 100.0%	8170 37.6%	4856 22.3%	3933 18.1%	7979 36.7%	9127 42.0%	9149 42.1%	6099 28.1%
[Q03] 性別	a. 男性	14845 100.0%	6124 41.3%	3637 24.5%	2506 16.9%	5485 36.9%	6770 45.6%	6539 44.0%	4464 30.1%
	b. 女性	6187 100.0%	1812 29.3%	1070 17.3%	1266 20.5%	2209 35.7%	2019 32.6%	2275 36.8%	1417 22.9%
	c. その他/回答しない	706 100.0%	234 33.1%	149 21.1%	161 22.8%	285 40.4%	338 47.9%	335 47.5%	218 30.9%

[Q08] 課題や問題点 × [Q04] 年齢

		合計	[Q08] 課題や問題点						
			a. 修士課程学生や博士課程学生における確保や育成に関すること	b. 若手研究者（ポスドク）における確保や育成に関すること	c. 研究者ネットワーク構築に関すること	d. 教員や学生等のキャリアパスに関すること	e. 基盤的経費（運営費交付金など）の不足に関すること	f. 競争的研究費、外部研究資金の獲得や手続きに関すること	g. 研究機器の整備や利用に関すること
全体		21738 100.0%	8170 37.6%	4856 22.3%	3933 18.1%	7979 36.7%	9127 42.0%	9149 42.1%	6099 28.1%
[Q04] 年齢	a. 25歳未満	51 100.0%	16 31.4%	11 21.6%	9 17.6%	24 47.1%	17 33.3%	15 29.4%	15 29.4%
	b. 25歳～29歳	1128 100.0%	414 36.7%	354 31.4%	309 27.4%	531 47.1%	406 36.0%	439 38.9%	301 26.7%
	c. 30歳～34歳	1796 100.0%	642 35.7%	448 24.9%	472 26.3%	824 45.9%	767 42.7%	726 40.4%	480 26.7%
	d. 35歳～39歳	2497 100.0%	900 36.0%	643 25.8%	530 21.2%	1074 43.0%	1071 42.9%	1035 41.4%	721 28.9%
	e. 40歳～44歳	3209 100.0%	1189 37.1%	757 23.6%	636 19.8%	1257 39.2%	1339 41.7%	1402 43.7%	904 28.2%
	f. 45歳～49歳	3597 100.0%	1371 38.1%	814 22.6%	653 18.2%	1372 38.1%	1626 45.2%	1667 46.3%	1045 29.1%
	g. 50歳～54歳	3252 100.0%	1296 39.9%	687 21.1%	504 15.5%	1057 32.5%	1457 44.8%	1469 45.2%	965 29.7%
	h. 55歳～59歳	2834 100.0%	1123 39.6%	537 18.9%	403 14.2%	912 32.2%	1223 43.2%	1212 42.8%	809 28.5%
	i. 60歳～64歳	2434 100.0%	940 38.6%	429 17.6%	299 12.3%	658 27.0%	935 38.4%	905 37.2%	641 26.3%
	j. 65歳以上	940 100.0%	279 29.7%	176 18.7%	118 12.6%	270 28.7%	286 30.4%	279 29.7%	218 23.2%

h. 研究施設・場所の確保や整備に関すること	i. 研究試料、実験動物等の研究資材の準備に関すること	j. データ整理・知財管理に関すること	k. 技術職員、技術者の確保に関すること	l. URAや事務職員等の研究支援人材の確保に関すること	m. 研究時間の確保に関すること	o. 産学連携（共同研究、受託研究等）に関すること	p. 海外との共同研究やネットワークの構築に関すること	q. 広報及びアウトリーチに関すること	r. その他（ ）	s. 特になし
6175 28.4%	1949 9.0%	4165 19.2%	4611 21.2%	2825 13.0%	15156 69.7%	3139 14.4%	3009 13.8%	2068 9.5%	1428 6.6%	730 3.4%
2620 28.1%	899 9.6%	1747 18.7%	2395 25.7%	1289 13.8%	6113 65.5%	1374 14.7%	1367 14.6%	859 9.2%	714 7.6%	279 3.0%
413 29.2%	116 8.2%	274 19.4%	270 19.1%	234 16.5%	1049 74.2%	215 15.2%	203 14.4%	155 11.0%	98 6.9%	46 3.3%
3074 28.7%	925 8.6%	2092 19.5%	1850 17.3%	1262 11.8%	7836 73.1%	1520 14.2%	1399 13.1%	1020 9.5%	594 5.5%	392 3.7%
68 25.1%	9 3.3%	52 19.2%	96 35.4%	40 14.8%	158 58.3%	30 11.1%	40 14.8%	34 12.5%	22 8.1%	13 4.8%

h. 研究施設・場所の確保や整備に関すること	i. 研究試料、実験動物等の研究資材の準備に関すること	j. データ整理・知財管理に関すること	k. 技術職員、技術者の確保に関すること	l. URAや事務職員等の研究支援人材の確保に関すること	m. 研究時間の確保に関すること	o. 産学連携（共同研究、受託研究等）に関すること	p. 海外との共同研究やネットワークの構築に関すること	q. 広報及びアウトリーチに関すること	r. その他（ ）	s. 特になし
6175 28.4%	1949 9.0%	4165 19.2%	4611 21.2%	2825 13.0%	15156 69.7%	3139 14.4%	3009 13.8%	2068 9.5%	1428 6.6%	730 3.4%
4329 29.2%	1449 9.8%	2723 18.3%	3443 23.2%	1900 12.8%	10204 68.7%	2374 16.0%	1997 13.5%	1449 9.8%	920 6.2%	474 3.2%
1630 26.3%	432 7.0%	1286 20.8%	1052 17.0%	814 13.2%	4428 71.6%	678 11.0%	895 14.5%	533 8.6%	409 6.6%	242 3.9%
216 30.6%	68 9.6%	156 22.1%	116 16.4%	111 15.7%	524 74.2%	87 12.3%	117 16.6%	86 12.2%	99 14.0%	14 2.0%

h. 研究施設・場所の確保や整備に関すること	i. 研究試料、実験動物等の研究資材の準備に関すること	j. データ整理・知財管理に関すること	k. 技術職員、技術者の確保に関すること	l. URAや事務職員等の研究支援人材の確保に関すること	m. 研究時間の確保に関すること	o. 産学連携（共同研究、受託研究等）に関すること	p. 海外との共同研究やネットワークの構築に関すること	q. 広報及びアウトリーチに関すること	r. その他（ ）	s. 特になし
6175 28.4%	1949 9.0%	4165 19.2%	4611 21.2%	2825 13.0%	15156 69.7%	3139 14.4%	3009 13.8%	2068 9.5%	1428 6.6%	730 3.4%
11 21.6%	5 9.8%	6 11.8%	9 17.6%	1 2.0%	18 35.3%	2 3.9%	6 11.8%	3 5.9%	0 0.0%	8 15.7%
246 21.8%	112 9.9%	186 16.5%	152 13.5%	66 5.9%	528 46.8%	125 11.1%	181 16.0%	80 7.1%	42 3.7%	84 7.4%
511 28.5%	200 11.1%	277 15.4%	291 16.2%	152 8.5%	1143 63.6%	236 13.1%	292 16.3%	137 7.6%	94 5.2%	73 4.1%
773 31.0%	255 10.2%	482 19.3%	580 23.2%	293 11.7%	1775 71.1%	347 13.9%	385 15.4%	240 9.6%	154 6.2%	79 3.2%
973 30.3%	320 10.0%	599 18.7%	751 23.4%	452 14.1%	2418 75.4%	433 13.5%	463 14.4%	362 11.3%	247 7.7%	63 2.0%
1079 30.0%	353 9.8%	762 21.2%	857 23.8%	551 15.3%	2722 75.7%	543 15.1%	498 13.8%	394 11.0%	268 7.5%	70 1.9%
964 29.6%	299 9.2%	681 20.9%	780 24.0%	476 14.6%	2399 73.8%	527 16.2%	426 13.1%	354 10.9%	234 7.2%	91 2.8%
781 27.6%	218 7.7%	566 20.0%	614 21.7%	416 14.7%	2048 72.3%	443 15.6%	383 13.5%	250 8.8%	188 6.6%	74 2.6%
604 24.8%	142 5.8%	431 17.7%	447 18.4%	295 12.1%	1594 65.5%	343 14.1%	269 11.1%	181 7.4%	170 7.0%	105 4.3%
233 24.8%	45 4.8%	175 18.6%	130 13.8%	123 13.1%	511 54.4%	140 14.9%	106 11.3%	67 7.1%	31 3.3%	83 8.8%

[Q08] 課題や問題点 × [Q06] 学術分野 (総合)

	合計	[Q08] 課題や問題点							
		a. 修士課程学生や博士課程学生における確保や育成に関すること	b. 若手研究者 (ポスドク) における確保や育成に関すること	c. 研究者ネットワーク構築に関すること	d. 教員や学生等のキャリアパスに関すること	e. 基盤的経費 (運営費交付金など) の不足に関すること	f. 競争的研究費、外部研究資金の獲得や手続きに関すること	g. 研究機器の整備や利用に関すること	
全体	21738 100.0%	8170 37.6%	4856 22.3%	3933 18.1%	7979 36.7%	9127 42.0%	9149 42.1%	6099 28.1%	
[Q06] 学術分野 (総合)	人文科学	1935 100.0%	558 28.8%	377 19.5%	359 18.6%	630 32.6%	675 34.9%	746 38.6%	276 14.3%
	社会科学	2522 100.0%	707 28.0%	405 16.1%	542 21.5%	858 34.0%	850 33.7%	989 39.2%	305 12.1%
	理学	3019 100.0%	1363 45.1%	846 28.0%	481 15.9%	1190 39.4%	1545 51.2%	1399 46.3%	986 32.7%
	工学	3362 100.0%	1568 46.6%	781 23.2%	525 15.6%	1126 33.5%	1629 48.5%	1473 43.8%	1243 37.0%
	農学	1369 100.0%	690 50.4%	356 26.0%	220 16.1%	485 35.4%	746 54.5%	649 47.4%	582 42.5%
	保健	6758 100.0%	2577 38.1%	1723 25.5%	1292 19.1%	2791 41.3%	2744 40.6%	2959 43.8%	2046 30.3%
	その他部門	2773 100.0%	707 25.5%	368 13.3%	514 18.5%	899 32.4%	938 33.8%	934 33.7%	661 23.8%

[Q08] 課題や問題点 × [Q06] 学術分野

	合計	[Q08] 課題や問題点							
		a. 修士課程学生や博士課程学生における確保や育成に関すること	b. 若手研究者 (ポスドク) における確保や育成に関すること	c. 研究者ネットワーク構築に関すること	d. 教員や学生等のキャリアパスに関すること	e. 基盤的経費 (運営費交付金など) の不足に関すること	f. 競争的研究費、外部研究資金の獲得や手続きに関すること	g. 研究機器の整備や利用に関すること	
全体	21738 100.0%	8170 37.6%	4856 22.3%	3933 18.1%	7979 36.7%	9127 42.0%	9149 42.1%	6099 28.1%	
[Q06] 学術分野	a. 文学	529 100.0%	155 29.3%	98 18.5%	89 16.8%	161 30.4%	157 29.7%	168 31.8%	65 12.3%
	b. 史学	351 100.0%	117 33.3%	94 26.8%	66 18.8%	107 30.5%	148 42.2%	158 45.0%	53 15.1%
	c. 哲学	148 100.0%	49 33.1%	34 23.0%	31 20.9%	58 39.2%	56 37.8%	64 43.2%	18 12.2%
	d. 人文学-その他	907 100.0%	237 26.1%	151 16.6%	173 19.1%	304 33.5%	314 34.6%	356 39.3%	140 15.4%
	e. 法学・政治	512 100.0%	171 33.4%	108 21.1%	101 19.7%	176 34.4%	203 39.6%	222 43.4%	69 13.5%
	f. 商学・経済	903 100.0%	268 29.7%	126 14.0%	196 21.7%	279 30.9%	294 32.6%	332 36.8%	93 10.3%
	g. 社会学	352 100.0%	87 24.7%	54 15.3%	77 21.9%	126 35.8%	122 34.7%	144 40.9%	41 11.6%
	h. 社会科学-その他	755 100.0%	181 24.0%	117 15.5%	168 22.3%	277 36.7%	231 30.6%	291 38.5%	102 13.5%
	i. 数学	315 100.0%	98 31.1%	74 23.5%	42 13.3%	100 31.7%	111 35.2%	111 35.2%	21 6.7%
	j. 情報科学	520 100.0%	212 40.8%	115 22.1%	93 17.9%	189 36.3%	211 40.6%	230 44.2%	91 17.5%
	k. 物理	545 100.0%	241 44.2%	177 32.5%	80 14.7%	232 42.6%	296 54.3%	250 45.9%	161 29.5%
	l. 化学	437 100.0%	221 50.6%	95 21.7%	66 15.1%	172 39.4%	250 57.2%	213 48.7%	214 49.0%
	m. 生物	830 100.0%	430 51.8%	285 34.3%	155 18.7%	376 45.3%	485 58.4%	433 52.2%	359 43.3%
	n. 地学	197 100.0%	97 49.2%	52 26.4%	19 9.6%	61 31.0%	110 55.8%	91 46.2%	83 42.1%
	o. 理学-その他	175 100.0%	64 36.6%	48 27.4%	26 14.9%	60 34.3%	82 46.9%	71 40.6%	57 32.6%
	p. 機械・船舶	570 100.0%	263 46.1%	118 20.7%	79 13.9%	182 31.9%	267 46.8%	242 42.5%	196 34.4%
	q. 電気・通信	602 100.0%	288 47.8%	143 23.8%	92 15.3%	196 32.6%	292 48.5%	268 44.5%	199 33.1%
	r. 土木・建築	568 100.0%	253 44.5%	115 20.2%	98 17.3%	178 31.3%	244 43.0%	227 40.0%	158 27.8%
	s. 応用化学	430 100.0%	225 52.3%	114 26.5%	63 14.7%	154 35.8%	271 63.0%	206 47.9%	224 52.1%
	t. 応用理学	100 100.0%	48 48.0%	36 36.0%	11 11.0%	40 40.0%	55 55.0%	50 50.0%	39 39.0%
u. 原子力	44 100.0%	16 36.4%	7 15.9%	4 9.1%	11 25.0%	16 36.4%	19 43.2%	11 25.0%	

h. 研究施設・場所の確保や整備に関すること	i. 研究試料、実験動物等の研究資材の準備に関すること	j. データ整理・知財管理に関すること	k. 技術職員、技術者の確保に関すること	l. URAや事務職員等の研究支援人材の確保に関すること	m. 研究時間の確保に関すること	o. 産学連携（共同研究、受託研究等）に関すること	p. 海外との共同研究やネットワークの構築に関すること	q. 広報及びアウトリーチに関すること	r. その他（ ）	s. 特になし
6175 28.4%	1949 9.0%	4165 19.2%	4611 21.2%	2825 13.0%	15156 69.7%	3139 14.4%	3009 13.8%	2068 9.5%	1428 6.6%	730 3.4%
359 18.6%	27 1.4%	251 13.0%	115 5.9%	222 11.5%	1446 74.7%	113 5.8%	340 17.6%	200 10.3%	174 9.0%	88 4.5%
400 15.9%	29 1.1%	369 14.6%	139 5.5%	360 14.3%	1880 74.5%	365 14.5%	455 18.0%	301 11.9%	235 9.3%	81 3.2%
882 29.2%	270 8.9%	450 14.9%	776 25.7%	396 13.1%	2090 69.2%	361 12.0%	380 12.6%	333 11.0%	226 7.5%	74 2.5%
1219 36.3%	248 7.4%	572 17.0%	1026 30.5%	471 14.0%	2214 65.9%	740 22.0%	497 14.8%	303 9.0%	215 6.4%	100 3.0%
566 41.3%	257 18.8%	259 18.9%	468 34.2%	220 16.1%	980 71.6%	265 19.4%	207 15.1%	165 12.1%	94 6.9%	21 1.5%
1929 28.5%	989 14.6%	1763 26.1%	1763 26.1%	816 12.1%	4498 66.6%	982 14.5%	787 11.6%	457 6.8%	300 4.4%	249 3.7%
820 29.6%	129 4.7%	501 18.1%	324 11.7%	340 12.3%	2048 73.9%	313 11.3%	343 12.4%	309 11.1%	184 6.6%	117 4.2%

h. 研究施設・場所の確保や整備に関すること	i. 研究試料、実験動物等の研究資材の準備に関すること	j. データ整理・知財管理に関すること	k. 技術職員、技術者の確保に関すること	l. URAや事務職員等の研究支援人材の確保に関すること	m. 研究時間の確保に関すること	o. 産学連携（共同研究、受託研究等）に関すること	p. 海外との共同研究やネットワークの構築に関すること	q. 広報及びアウトリーチに関すること	r. その他（ ）	s. 特になし
6175 28.4%	1949 9.0%	4165 19.2%	4611 21.2%	2825 13.0%	15156 69.7%	3139 14.4%	3009 13.8%	2068 9.5%	1428 6.6%	730 3.4%
89 16.8%	5 0.9%	53 10.0%	22 4.2%	44 8.3%	384 72.6%	23 4.3%	74 14.0%	49 9.3%	47 8.9%	34 6.4%
84 23.9%	8 2.3%	39 11.1%	20 5.7%	53 15.1%	252 71.8%	18 5.1%	62 17.7%	35 10.0%	21 6.0%	11 3.1%
27 18.2%	1 0.7%	8 5.4%	9 6.1%	16 10.8%	113 76.4%	10 6.8%	26 17.6%	12 8.1%	10 6.8%	5 3.4%
159 17.5%	13 1.4%	151 16.6%	64 7.1%	109 12.0%	697 76.8%	62 6.8%	178 19.6%	104 11.5%	96 10.6%	38 4.2%
91 17.8%	8 1.6%	50 9.8%	16 3.1%	75 14.6%	381 74.4%	42 8.2%	86 16.8%	61 11.9%	47 9.2%	17 3.3%
101 11.2%	9 1.0%	131 14.5%	44 4.9%	114 12.6%	678 75.1%	161 17.8%	171 18.9%	101 11.2%	87 9.6%	27 3.0%
50 14.2%	3 0.9%	46 13.1%	16 4.5%	49 13.9%	263 74.7%	40 11.4%	54 15.3%	44 12.5%	31 8.8%	11 3.1%
158 20.9%	9 1.2%	142 18.8%	63 8.3%	122 16.2%	558 73.9%	122 16.2%	144 19.1%	95 12.6%	70 9.3%	26 3.4%
30 9.5%	2 0.6%	14 4.4%	15 4.8%	28 8.9%	238 75.6%	18 5.7%	29 9.2%	18 5.7%	29 9.2%	16 5.1%
109 21.0%	9 1.7%	104 20.0%	110 21.2%	68 13.1%	380 73.1%	89 17.1%	71 13.7%	56 10.8%	39 7.5%	12 2.3%
151 27.7%	24 4.4%	50 9.2%	141 25.9%	69 12.7%	381 69.9%	40 7.3%	62 11.4%	59 10.8%	39 7.2%	15 2.8%
157 35.9%	47 10.8%	68 15.6%	106 24.3%	42 9.6%	290 66.4%	74 16.9%	48 11.0%	36 8.2%	34 7.8%	9 2.1%
336 40.5%	166 20.0%	156 18.8%	292 35.2%	122 14.7%	539 64.9%	103 12.4%	125 15.1%	102 12.3%	49 5.9%	13 1.6%
53 26.9%	11 5.6%	25 12.7%	58 29.4%	34 17.3%	153 77.7%	17 8.6%	24 12.2%	33 16.8%	15 7.6%	3 1.5%
46 26.3%	11 6.3%	33 18.9%	54 30.9%	33 18.9%	109 62.3%	20 11.4%	21 12.0%	29 16.6%	21 12.0%	6 3.4%
239 41.9%	49 8.6%	88 15.4%	191 33.5%	71 12.5%	359 63.0%	124 21.8%	72 12.6%	53 9.3%	42 7.4%	14 2.5%
199 33.1%	43 7.1%	101 16.8%	177 29.4%	94 15.6%	401 66.6%	117 19.4%	81 13.5%	42 7.0%	34 5.6%	14 2.3%
189 33.3%	26 4.6%	101 17.8%	151 26.6%	81 14.3%	420 73.9%	117 20.6%	92 16.2%	62 10.9%	35 6.2%	19 3.3%
181 42.1%	35 8.1%	77 17.9%	137 31.9%	60 14.0%	280 65.1%	102 23.7%	60 14.0%	41 9.5%	17 4.0%	8 1.9%
36 36.0%	13 13.0%	18 18.0%	38 38.0%	19 19.0%	72 72.0%	17 17.0%	19 19.0%	13 13.0%	8 8.0%	0 0.0%
15 34.1%	3 6.8%	7 15.9%	14 31.8%	7 15.9%	27 61.4%	11 25.0%	6 13.6%	3 6.8%	7 15.9%	3 6.8%

[Q08] 課題や問題点 × [Q06] 学術分野

		合計	[Q08] 課題や問題点						
			a. 修士課程学生や博士課程学生における確保や育成に関すること	b. 若手研究者（ポスドク）における確保や育成に関すること	c. 研究者ネットワーク構築に関すること	d. 教員や学生等のキャリアパスに関すること	e. 基盤的経費（運営費交付金など）の不足に関すること	f. 競争的研究費、外部研究資金の獲得や手続きに関すること	g. 研究機器の整備や利用に関すること
全体		21738 100.0%	8170 37.6%	4856 22.3%	3933 18.1%	7979 36.7%	9127 42.0%	9149 42.1%	6099 28.1%
[Q06] 学術分野	v. 材料	319 100.0%	174 54.5%	113 35.4%	51 16.0%	115 36.1%	173 54.2%	155 48.6%	178 55.8%
	w. 繊維	7 100.0%	4 57.1%	1 14.3%	1 14.3%	1 14.3%	4 57.1%	3 42.9%	4 57.1%
	x. 航空	70 100.0%	30 42.9%	13 18.6%	8 11.4%	29 41.4%	32 45.7%	24 34.3%	19 27.1%
	y. 経営工学	58 100.0%	20 34.5%	8 13.8%	14 24.1%	26 44.8%	13 22.4%	27 46.6%	9 15.5%
	z. 工学-その他	594 100.0%	247 41.6%	113 19.0%	104 17.5%	194 32.7%	262 44.1%	252 42.4%	206 34.7%
	aa. 農学	235 100.0%	115 48.9%	52 22.1%	38 16.2%	71 30.2%	122 51.9%	100 42.6%	96 40.9%
	ab. 農芸化学	365 100.0%	210 57.5%	112 30.7%	64 17.5%	146 40.0%	221 60.5%	200 54.8%	209 57.3%
	ac. 農業工学	62 100.0%	41 66.1%	19 30.6%	12 19.4%	25 40.3%	36 58.1%	36 58.1%	29 46.8%
	ad. 農業経済	72 100.0%	29 40.3%	12 16.7%	13 18.1%	33 45.8%	30 41.7%	27 37.5%	4 5.6%
	ae. 林学	88 100.0%	31 35.2%	19 21.6%	11 12.5%	25 28.4%	49 55.7%	41 46.6%	25 28.4%
	af. 林産	35 100.0%	17 48.6%	9 25.7%	3 8.6%	13 37.1%	21 60.0%	17 48.6%	15 42.9%
	ag. 獣医・畜産	251 100.0%	133 53.0%	66 26.3%	36 14.3%	95 37.8%	137 54.6%	125 49.8%	110 43.8%
	ah. 水産	123 100.0%	61 49.6%	38 30.9%	19 15.4%	35 28.5%	70 56.9%	49 39.8%	49 39.8%
	ai. 農学-その他	138 100.0%	53 38.4%	29 21.0%	24 17.4%	42 30.4%	60 43.5%	54 39.1%	45 32.6%
	aj. 医学	3287 100.0%	1270 38.6%	1028 31.3%	544 16.6%	1265 38.5%	1549 47.1%	1651 50.2%	962 29.3%
	ak. 歯学	436 100.0%	174 39.9%	145 33.3%	61 14.0%	184 42.2%	188 43.1%	174 39.9%	155 35.6%
	al. 薬学	800 100.0%	387 48.4%	221 27.6%	171 21.4%	417 52.1%	356 44.5%	395 49.4%	334 41.8%
	am. 看護	1205 100.0%	418 34.7%	162 13.4%	321 26.6%	511 42.4%	321 26.6%	387 32.1%	218 18.1%
	an. 保健-その他	1030 100.0%	328 31.8%	167 16.2%	195 18.9%	414 40.2%	330 32.0%	352 34.2%	377 36.6%
	ao. 心理学	619 100.0%	224 36.2%	104 16.8%	133 21.5%	245 39.6%	235 38.0%	266 43.0%	152 24.6%
ap. 家政	258 100.0%	64 24.8%	31 12.0%	49 19.0%	79 30.6%	73 28.3%	86 33.3%	93 36.0%	
aq. 教育	1296 100.0%	259 20.0%	132 10.2%	232 17.9%	364 28.1%	423 32.6%	409 31.6%	238 18.4%	
ar. 芸術-その他	600 100.0%	160 26.7%	101 16.8%	100 16.7%	211 35.2%	207 34.5%	173 28.8%	178 29.7%	

h. 研究施設・場所の確保や整備に関すること	i. 研究試料、実験動物等の研究資材の準備に関すること	j. データ整理・知財管理に関すること	k. 技術職員、技術者の確保に関すること	l. URAや事務職員等の研究支援人材の確保に関すること	m. 研究時間の確保に関すること	o. 産学連携（共同研究、受託研究等）に関すること	p. 海外との共同研究やネットワークの構築に関すること	q. 広報及びアウトリーチに関すること	r. その他（ ）	s. 特になし
6175	1949	4165	4611	2825	15156	3139	3009	2068	1428	730
28.4%	9.0%	19.2%	21.2%	13.0%	69.7%	14.4%	13.8%	9.5%	6.6%	3.4%
131	29	50	117	43	206	88	59	31	22	10
41.1%	9.1%	15.7%	36.7%	13.5%	64.6%	27.6%	18.5%	9.7%	6.9%	3.1%
4	0	0	2	1	4	1	0	1	0	0
57.1%	0.0%	0.0%	28.6%	14.3%	57.1%	14.3%	0.0%	14.3%	0.0%	0.0%
20	2	8	27	13	35	15	12	4	8	5
28.6%	2.9%	11.4%	38.6%	18.6%	50.0%	21.4%	17.1%	5.7%	11.4%	7.1%
8	1	11	9	5	41	15	11	3	3	3
13.8%	1.7%	19.0%	15.5%	8.6%	70.7%	25.9%	19.0%	5.2%	5.2%	5.2%
197	47	111	163	77	369	133	85	50	39	24
33.2%	7.9%	18.7%	27.4%	13.0%	62.1%	22.4%	14.3%	8.4%	6.6%	4.0%
106	44	44	93	36	151	41	23	27	13	4
45.1%	18.7%	18.7%	39.6%	15.3%	64.3%	17.4%	9.8%	11.5%	5.5%	1.7%
163	70	72	126	54	275	97	59	45	21	1
44.7%	19.2%	19.7%	34.5%	14.8%	75.3%	26.6%	16.2%	12.3%	5.8%	0.3%
28	5	15	27	18	51	20	16	13	4	0
45.2%	8.1%	24.2%	43.5%	29.0%	82.3%	32.3%	25.8%	21.0%	6.5%	0.0%
5	1	11	4	13	57	12	17	12	10	1
6.9%	1.4%	15.3%	5.6%	18.1%	79.2%	16.7%	23.6%	16.7%	13.9%	1.4%
28	5	16	33	17	69	10	18	9	10	1
31.8%	5.7%	18.2%	37.5%	19.3%	78.4%	11.4%	20.5%	10.2%	11.4%	1.1%
15	4	7	7	4	22	4	5	2	4	1
42.9%	11.4%	20.0%	20.0%	11.4%	62.9%	11.4%	14.3%	5.7%	11.4%	2.9%
107	77	45	100	30	176	35	33	20	15	2
42.6%	30.7%	17.9%	39.8%	12.0%	70.1%	13.9%	13.1%	8.0%	6.0%	0.8%
54	23	18	42	26	85	25	21	20	7	5
43.9%	18.7%	14.6%	34.1%	21.1%	69.1%	20.3%	17.1%	16.3%	5.7%	4.1%
60	28	31	36	22	94	21	15	17	10	6
43.5%	20.3%	22.5%	26.1%	15.9%	68.1%	15.2%	10.9%	12.3%	7.2%	4.3%
835	579	983	1141	390	1952	515	374	189	146	140
25.4%	17.6%	29.9%	34.7%	11.9%	59.4%	15.7%	11.4%	5.7%	4.4%	4.3%
127	76	94	102	43	265	55	51	25	24	26
29.1%	17.4%	21.6%	23.4%	9.9%	60.8%	12.6%	11.7%	5.7%	5.5%	6.0%
247	163	189	180	100	547	127	106	64	28	23
30.9%	20.4%	23.6%	22.5%	12.5%	68.4%	15.9%	13.3%	8.0%	3.5%	2.9%
337	38	269	162	176	991	122	137	79	52	20
28.0%	3.2%	22.3%	13.4%	14.6%	82.2%	10.1%	11.4%	6.6%	4.3%	1.7%
383	133	228	178	107	743	163	119	100	50	40
37.2%	12.9%	22.1%	17.3%	10.4%	72.1%	15.8%	11.6%	9.7%	4.9%	3.9%
199	32	137	112	93	513	70	82	74	58	13
32.1%	5.2%	22.1%	18.1%	15.0%	82.9%	11.3%	13.2%	12.0%	9.4%	2.1%
93	32	60	39	26	215	50	15	25	6	6
36.0%	12.4%	23.3%	15.1%	10.1%	83.3%	19.4%	5.8%	9.7%	2.3%	2.3%
293	28	203	73	151	914	101	170	128	83	70
22.6%	2.2%	15.7%	5.6%	11.7%	70.5%	7.8%	13.1%	9.9%	6.4%	5.4%
235	37	101	100	70	406	92	76	82	37	28
39.2%	6.2%	16.8%	16.7%	11.7%	67.7%	15.3%	12.7%	13.7%	6.2%	4.7%

クロス集計 (A-PRAS 認知度)

1-2 (2) アンケート調査

[Q09] A-PRAS認知 × [Q01] 機関種別

		合計	[Q09] A-PRAS認知		
			a.制度の存在を知っており、どのようなサービスが認定されているかも知っていた	b.制度の存在は知っていたが、どのようなサービスが認定されているかは知らなかった	c.知らなかった
全体		21738 100.0%	298 1.4%	3209 14.8%	18231 83.9%
[Q01] 機関種別	a.国立大学	9334 100.0%	139 1.5%	1174 12.6%	8021 85.9%
	b.公立大学	1414 100.0%	17 1.2%	222 15.7%	1175 83.1%
	c.私立大学	10719 100.0%	138 1.3%	1790 16.7%	8791 82.0%
	d.大学共同利用機関法人	271 100.0%	4 1.5%	23 8.5%	244 90.0%

[Q09] A-PRAS認知 × [Q03] 性別

		合計	[Q09] A-PRAS認知		
			a.制度の存在を知っており、どのようなサービスが認定されているかも知っていた	b.制度の存在は知っていたが、どのようなサービスが認定されているかは知らなかった	c.知らなかった
全体		21738 100.0%	298 1.4%	3209 14.8%	18231 83.9%
[Q03] 性別	a.男性	14845 100.0%	221 1.5%	2109 14.2%	12515 84.3%
	b.女性	6187 100.0%	64 1.0%	987 16.0%	5136 83.0%
	c.その他/回答しない	706 100.0%	13 1.8%	113 16.0%	580 82.2%

[Q09] A-PRAS認知 × [Q04] 年齢

		合計	[Q09] A-PRAS認知		
			a.制度の存在を知っており、どのようなサービスが認定されているかも知っていた	b.制度の存在は知っていたが、どのようなサービスが認定されているかは知らなかった	c.知らなかった
全体		21738 100.0%	298 1.4%	3209 14.8%	18231 83.9%
[Q04] 年齢	a.25歳未満	51 100.0%	2 3.9%	6 11.8%	43 84.3%
	b.25歳～29歳	1128 100.0%	10 0.9%	110 9.8%	1008 89.4%
	c.30歳～34歳	1796 100.0%	23 1.3%	159 8.9%	1614 89.9%
	d.35歳～39歳	2497 100.0%	26 1.0%	285 11.4%	2186 87.5%
	e.40歳～44歳	3209 100.0%	41 1.3%	366 11.4%	2802 87.3%
	f.45歳～49歳	3597 100.0%	57 1.6%	474 13.2%	3066 85.2%
	g.50歳～54歳	3252 100.0%	41 1.3%	490 15.1%	2721 83.7%
	h.55歳～59歳	2834 100.0%	40 1.4%	530 18.7%	2264 79.9%
	i.60歳～64歳	2434 100.0%	38 1.6%	551 22.6%	1845 75.8%
	j.65歳以上	940 100.0%	20 2.1%	238 25.3%	682 72.6%

【Q09】 A-PRAS認知 × 【Q05】 職種／役職

		合計	【Q09】 A-PRAS認知		
			a.制度の存在を知っており、どのようなサービスが認定されているかも知っていた	b.制度の存在は知っていたが、どのようなサービスが認定されているかは知らなかった	c.知らなかった
全体		21738 100.0%	298 1.4%	3209 14.8%	18231 83.9%
【Q05】 職種／ 役職	a.教授	7296 100.0%	118 1.6%	1403 19.2%	5775 79.2%
	b.准教授	5283 100.0%	61 1.2%	735 13.9%	4487 84.9%
	c.助教	3426 100.0%	30 0.9%	387 11.3%	3009 87.8%
	d.講師	2345 100.0%	37 1.6%	306 13.0%	2002 85.4%
	e.博士（後期）課程学生	1395 100.0%	20 1.4%	138 9.9%	1237 88.7%
	f.ポストドクター	285 100.0%	4 1.4%	25 8.8%	256 89.8%
	g.その他研究員	453 100.0%	5 1.1%	42 9.3%	406 89.6%
	h.技術職員・技術者	768 100.0%	3 0.4%	96 12.5%	669 87.1%
	i.URA	134 100.0%	14 10.4%	29 21.6%	91 67.9%
	j.その他	353 100.0%	6 1.7%	48 13.6%	299 84.7%

【Q09】 A-PRAS認知 × 【Q06】 学術分野（統合）

		合計	【Q09】 A-PRAS認知		
			a.制度の存在を知っており、どのようなサービスが認定されているかも知っていた	b.制度の存在は知っていたが、どのようなサービスが認定されているかは知らなかった	c.知らなかった
全体		21738 100.0%	298 1.4%	3209 14.8%	18231 83.9%
【Q06】 学術分 野（統合）	人文科学	1935 100.0%	37 1.9%	306 15.8%	1592 82.3%
	社会科学	2522 100.0%	45 1.8%	373 14.8%	2104 83.4%
	理学	3019 100.0%	39 1.3%	348 11.5%	2632 87.2%
	工学	3362 100.0%	47 1.4%	442 13.1%	2873 85.5%
	農学	1369 100.0%	27 2.0%	161 11.8%	1181 86.3%
	保健	6758 100.0%	67 1.0%	1069 15.8%	5622 83.2%
	その他部門	2773 100.0%	36 1.3%	510 18.4%	2227 80.3%

[Q09] A-PRAS認知 × [Q06] 学術分野

	合計	[Q09] A-PRAS認知			
		a.制度の存在を知っており、どのようなサービスが認定されているかも知っていた	b.制度の存在は知っていたが、どのようなサービスが認定されているかは知らなかった	c.知らなかった	
全体	21738 100.0%	298 1.4%	3209 14.8%	18231 83.9%	
[Q06] 学術分野	a.文学	529 100.0%	14 2.6%	77 14.6%	438 82.8%
	b.史学	351 100.0%	3 0.9%	52 14.8%	296 84.3%
	c.哲学	148 100.0%	4 2.7%	29 19.6%	115 77.7%
	d.人文学-その他	907 100.0%	16 1.8%	148 16.3%	743 81.9%
	e.法学-政治	512 100.0%	5 1.0%	69 13.5%	438 85.5%
	f.商学-経済	903 100.0%	15 1.7%	135 15.0%	753 83.4%
	g.社会学	352 100.0%	6 1.7%	37 10.5%	309 87.8%
	h.社会科学-その他	755 100.0%	19 2.5%	132 17.5%	604 80.0%
	i.数学	315 100.0%	1 0.3%	30 9.5%	284 90.2%
	j.情報科学	520 100.0%	7 1.3%	74 14.2%	439 84.4%
	k.物理	545 100.0%	8 1.5%	48 8.8%	489 89.7%
	l.化学	437 100.0%	6 1.4%	51 11.7%	380 87.0%
	m.生物	830 100.0%	15 1.8%	94 11.3%	721 86.9%
	n.地学	197 100.0%	1 0.5%	25 12.7%	171 86.8%
	o.理学-その他	175 100.0%	1 0.6%	26 14.9%	148 84.6%
	p.機械-船舶	570 100.0%	7 1.2%	74 13.0%	489 85.8%
	q.電気-通信	602 100.0%	7 1.2%	86 14.3%	509 84.6%
	r.土木-建築	568 100.0%	6 1.1%	67 11.8%	495 87.1%
	s.応用化学	430 100.0%	9 2.1%	47 10.9%	374 87.0%
	t.応用理学	100 100.0%	2 2.0%	8 8.0%	90 90.0%
	u.原子力	44 100.0%	0 0.0%	10 22.7%	34 77.3%
	v.材料	319 100.0%	2 0.6%	38 11.9%	279 87.5%
	w.繊維	7 100.0%	0 0.0%	1 14.3%	6 85.7%
	x.航空	70 100.0%	1 1.4%	6 8.6%	63 90.0%
	y.経営工学	58 100.0%	0 0.0%	8 13.8%	50 86.2%
	z.工学-その他	594 100.0%	13 2.2%	97 16.3%	484 81.5%
	aa.農学	235 100.0%	6 2.6%	35 14.9%	194 82.6%
	ab.農芸化学	365 100.0%	7 1.9%	37 10.1%	321 87.9%
	ac.農業工学	62 100.0%	2 3.2%	9 14.5%	51 82.3%
	ad.農業経済	72 100.0%	2 2.8%	12 16.7%	58 80.6%
ae.林学	88 100.0%	0 0.0%	9 10.2%	79 89.8%	
af.林産	35 100.0%	0 0.0%	3 8.6%	32 91.4%	
ag.獣医-畜産	251 100.0%	8 3.2%	31 12.4%	212 84.5%	
ah.水産	123 100.0%	1 0.8%	13 10.6%	109 88.6%	
ai.農学-その他	138 100.0%	1 0.7%	12 8.7%	125 90.6%	
aj.医学	3287 100.0%	30 0.9%	434 13.2%	2823 85.9%	
ak.歯学	436 100.0%	4 0.9%	74 17.0%	358 82.1%	
al.薬学	800 100.0%	8 1.0%	122 15.3%	670 83.8%	
am.看護	1205 100.0%	12 1.0%	240 19.9%	953 79.1%	
an.保健-その他	1030 100.0%	13 1.3%	199 19.3%	818 79.4%	
ao.心理学	619 100.0%	5 0.8%	73 11.8%	541 87.4%	
ap.家政	258 100.0%	1 0.4%	59 22.9%	198 76.7%	
aq.教育	1296 100.0%	21 1.6%	587 21.4%	998 77.0%	
ar.芸術-その他	600 100.0%	9 1.5%	101 16.8%	490 81.7%	

クロス集計（研究サービスの利用状況）

1-2 (2) アンケート調査

[Q11] 研究支援サービスの利用状況（国内） × [Q01] 機関種別

年齢	国内サービス	
	実数	割合
a.国立大学	700	45.2%
b.公立大学	112	7.2%
c.私立大学	722	46.6%
d.大学共同利用機関法人	14	0.9%
総計	1,548	100.0%

[Q12] 研究支援サービスの利用状況（海外） × [Q01] 機関種別

年齢	海外サービス	
	実数	割合
a.国立大学	662	52.3%
b.公立大学	71	5.6%
c.私立大学	506	40.0%
d.大学共同利用機関法人	27	2.1%
総計	1,266	100.0%

[Q11] 研究支援サービスの利用状況（国内） × [Q03] 性別

年齢	国内サービス	
	実数	割合
a.男性	1,045	67.5%
b.女性	448	28.9%
c.その他/回答しない	55	3.6%
総計	1,548	100.0%

[Q12] 研究支援サービスの利用状況（海外） × [Q03] 性別

年齢	海外サービス	
	実数	割合
a.男性	922	72.8%
b.女性	284	22.4%
c.その他/回答しない	60	4.7%
総計	1,266	100.0%

[Q11] 研究支援サービスの利用状況（国内） × [Q04] 年齢

年齢	国内サービス	
	実数	割合
a.25歳未満	4	0.3%
b.25歳～29歳	76	4.9%
c.30歳～34歳	131	8.5%
d.35歳～39歳	224	14.5%
e.40歳～44歳	254	16.4%
f.45歳～49歳	264	17.1%
g.50歳～54歳	213	13.8%
h.55歳～59歳	185	12.0%
i.60歳～64歳	136	8.8%
j.65歳以上	61	3.9%
総計	1,548	100.0%

[Q12] 研究支援サービスの利用状況（海外） × [Q04] 年齢

年齢	海外サービス	
	実数	割合
a.25歳未満	4	0.3%
b.25歳～29歳	104	8.2%
c.30歳～34歳	157	12.4%
d.35歳～39歳	175	13.8%
e.40歳～44歳	227	17.9%
f.45歳～49歳	221	17.5%
g.50歳～54歳	148	11.7%
h.55歳～59歳	118	9.3%
i.60歳～64歳	78	6.2%
j.65歳以上	34	2.7%
総計	1,266	100.0%

[Q11] 研究支援サービスの利用状況（国内） × [Q05] 職種/役職

職種/役職	国内サービス	
	実数	割合
a.教授	534	34.5%
b.准教授	400	25.8%
c.助教	264	17.1%
d.講師	162	10.5%
e.博士（後期）課程学生	79	5.1%
f.ポストドクター	19	1.2%
g.その他研究員	23	1.5%
h.技術職員・技術者	19	1.2%
i.URA	25	1.6%
j.その他	23	1.5%
総計	1,548	100.0%

[Q12] 研究支援サービスの利用状況（海外） × [Q05] 職種/役職

職種/役職	海外サービス	
	実数	割合
a.教授	334	26.4%
b.准教授	347	27.4%
c.助教	240	19.0%
d.講師	124	9.8%
e.博士（後期）課程学生	114	9.0%
f.ポストドクター	25	2.0%
g.その他研究員	16	1.3%
h.技術職員・技術者	22	1.7%
i.URA	21	1.7%
j.その他	23	1.8%
総計	1,266	100.0%

[Q11] 研究支援サービスの利用状況（国内） × [Q06] 学術分野（統合）

学術分野	国内サービス	
	実数	割合
人文科学	108	7.0%
社会科学	258	16.7%
理学	211	13.6%
工学	229	14.8%
農学	124	8.0%
保健	443	28.6%
その他	175	11.3%
総計	1,548	100.0%

[Q12] 研究支援サービスの利用状況（海外） × [Q06] 学術分野（統合）

学術分野	海外サービス	
	実数	割合
人文科学	103	8.1%
社会科学	203	16.0%
理学	322	25.4%
工学	223	17.6%
農学	89	7.0%
保健	217	17.1%
その他	109	8.6%
総計	1,266	100.0%

[Q11] 研究支援サービスの利用状況（国内） × [Q06] 学術分野

学術分野	国内サービス	
	実数	割合
a.文学	32	2.1%
b.史学	21	1.4%
c.哲学	7	0.5%
d.人文学-その他	48	3.1%
e.法学・政治	57	3.7%
f.商学・経済	108	7.0%
g.社会学	18	1.2%
h.社会科学-その他	75	4.8%
i.数学	6	0.4%
j.情報科学	38	2.5%
k.物理	31	2.0%
l.化学	28	1.8%
m.生物	82	5.3%
n.地学	16	1.0%
o.理学-その他	10	0.6%
p.機械・船舶	42	2.7%
q.電気・通信	38	2.5%
r.土木・建築	24	1.6%
s.応用化学	31	2.0%
t.応用理学	9	0.6%
u.原子力	1	0.1%
v.材料	27	1.7%
w.繊維	0	0.0%
x.航空	11	0.7%
y.経営工学	4	0.3%
z.工学-その他	42	2.7%
aa.農学	24	1.6%
ab.農芸化学	35	2.3%
ac.農業工学	4	0.3%
ad.農業経済	11	0.7%
ae.林学	3	0.2%
af.林産	0	0.0%
ag.獣医・畜産	23	1.5%
ah.水産	12	0.8%
ai.農学-その他	12	0.8%
aj.医学	181	11.7%
ak.歯学	36	2.3%
al.薬学	55	3.6%
am.看護	90	5.8%
an.保健-その他	81	5.2%
ao.心理学	68	4.4%
ap.家政	15	1.0%
aq.教育	62	4.0%
ar.芸術-その他	30	1.9%
総計	1548	100.0%

[Q12] 研究支援サービスの利用状況（海外） × [Q06] 学術分野

学術分野	海外サービス	
	実数	割合
a.文学	28	2.2%
b.史学	19	1.5%
c.哲学	9	0.7%
d.人文学-その他	47	3.7%
e.法学・政治	40	3.2%
f.商学・経済	104	8.2%
g.社会学	10	0.8%
h.社会科学-その他	49	3.9%
i.数学	33	2.6%
j.情報科学	67	5.3%
k.物理	59	4.7%
l.化学	44	3.5%
m.生物	87	6.9%
n.地学	23	1.8%
o.理学-その他	9	0.7%
p.機械・船舶	36	2.8%
q.電気・通信	41	3.2%
r.土木・建築	27	2.1%
s.応用化学	21	1.7%
t.応用理学	14	1.1%
u.原子力	4	0.3%
v.材料	26	2.1%
w.繊維	0	0.0%
x.航空	9	0.7%
y.経営工学	1	0.1%
z.工学-その他	44	3.5%
aa.農学	13	1.0%
ab.農芸化学	29	2.3%
ac.農業工学	2	0.2%
ad.農業経済	7	0.6%
ae.林学	11	0.9%
af.林産	1	0.1%
ag.獣医・畜産	11	0.9%
ah.水産	8	0.6%
ai.農学-その他	7	0.6%
aj.医学	107	8.5%
ak.歯学	12	0.9%
al.薬学	31	2.4%
am.看護	29	2.3%
an.保健-その他	38	3.0%
ao.心理学	47	3.7%
ap.家政	7	0.6%
aq.教育	31	2.4%
ar.芸術-その他	24	1.9%
総計	1,266	100.0%

研究者の業務負担を軽減するために必要とされる研究支援サービスに関する調査 調査報告書

令和5年3月

株式会社シード・プランニング